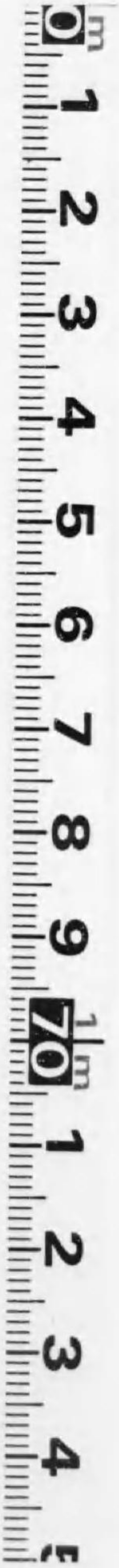


522  
14  
176



始





*From the painting by Ed. Grützner.*

*Photo: Berlin Photographic Co., London.*

Falstaff on the Battlefield ("Henry IV."—Part First).

*Falstaff* "Shlood, 'twas time to counterfeit, or that hot kerningant 8 of had paid me scot and lot too."

Act V., Sc. IV.



第一部

四世

坪内逍遙

正譯  
13. 3. 29  
購求



## 緒言

第一部と第二部とより成れる此作は、年代的にも事件的にも相聯絡せる英國史劇として、前は「リチャード二世」に、後は「ヘンリー五世」に密接す。作者は、例によつて、其頃正史視せられたりし事實を——例のホリンシェッドの英國史を——ほゞ忠實に辿りて脚色せり。随つて、右の四部を合せて、所謂四部曲テトラロジーと見做すに及んで、始めて完備したる叙事詩劇と稱するを得べく、少くとも英國史蹟に疎遠なる者に取り

ては、之を一部宛に引離すことは、多少事件の因縁を曖昧ならしめて、作の感興を減少する所以なるべき歟。

「ヘンリー四世」の第一部の世に出でしは一五九八年の四折本を最初とすれども、其書下されしは一五九七年よりは晩からじと推定せらる。すなはち劇作家としての沙翁の技が漸く圓熟の域に入りたる三十三歳頃の作なり。

史劇の「リチャード二世」、「ジョン王」、夢幻喜劇の「真夏の夜の夢」喜劇の「エニスの商人」などは、ほゞ同期の作なるべし。此期以前の諸作には、或は其作意、修辭に摸倣の痕跡の歴々たるものある歟、或は如何にも習作らしき蕪雜生硬の失あるものあり。

る歟、其孰れかを免れざりき。然るに此作の成れる前後に至りては、作者の舞臺技巧著しく進み、着想も際立ちて大人び、措辭も目覺しく洗練され、就中性格描寫に於て、他の追隨を許さざる底の特殊の天才を發揮し來れり。正史的の雄大壯烈なる悲劇事件の間に極めて滑稽なる風俗畫式の市井的寫生圖を粧點して、英雄的情趣と道戯気分とを大膽に錯交せしめながら、尙何等の不調和をも感ぜしめざるが如きは、此「ヘンリー四世」以前には未だ曾て見る能はざりし所の新生面たり。又、彼の韻語と散文との自在なる使ひ分けは、沙翁が其中年以後、最も得意とせ

し所なるが、之を史劇に適用せしは、實に此作を以て始めとなすと云ふ。

沙翁の英國史劇の傑作としては、コールリッチは「リチャード二世」を推稱し、或他の批評家らは「ジョン王」を取り、興行師らは、其壯觀スペクタキュラなるの故に、「ヘンリー八世」を取らんとす。脚色の比較的引締りて、外題タイトルロール役の主要人物が、全曲を一貫し、やゝ消極的ながら、劇學者らの所謂悲劇の主人公らしき働きを做し、随つて心理上、倫理哲學上などより觀て感興多きを取らば、「リチャード二世」は正に其選に入るべきものならん。又、其主要人物の描寫の比較的最も多様にして、

且つ最も手強く、觀衆を悲喜愛憎せしむる舞臺的效果に於て最も優秀に、脚色將た散漫ならざるを得たる點よりいはゞ、「ジョン王」こそ彼れが英國史劇中の白眉なるべけれ。然れども若し其劇としての結構の今の所謂劇の如くならざるは、當時の劇壇の需要に應じたるに外ならざる所以を理解し、専ら其詩的ポエチカルクリエーション創作の不易なる部分の價值より觀ん歟、沙翁の英國史劇六種、九部の中、「ヘンリー四世」前後二部のそれに優るものは、他にあらずといふも過言にあらじ。此作に現はるゝフォールスタッフの性格の如きは、眞に古今東西に比類を見出だす能はざる假作人物にして、驚

異すべき沙翁が創作クリエーションとしては、其自然味の豊かなる點に於て、優にハムレット、クレオパトラを凌駕す。其然る所以は、近世の最も過激なる沙翁貶辱者と雖も、——ショー、トルストイらと雖も——此一性格の優秀を認めざるを得ざりしによりて知るべきなり。飄へう輕きんなる大俗物、猿利口の肉慾餓鬼、極樂蜻蛉せうていの後生樂ごせうらく、其求むる所は只利益、只愉快、當意即妙の頓智に富み、臨機應變の辯才に長じ、平時も、戰時も、口に馱洒落を絶つことなき、讀んで字の如き醉生夢死の權化なり。談話と虚言と大言と鐵面皮と尊大と、此五つを運用して、不思議にも一種の品位を保ち、甚しく臆病なる

にも拘らず、時にドン・キホーテの如く、卑劣を極むれども、到底憎まるゝ能はざる一種の愛嬌を具ふ。沙翁の創造したる性格中の最とせられたるは故あり。其他、策士肌の老政治家としてのヘンリー四世、豪放磊落にして直情逕行なる熱拍車ホットスパス、暗に作者の少年時の面影を聯想せしむる放逸なる王世子ハリーの如き、孰れも不易の製作たり。此作の主なる材料のホリンシェットの「英國史」より出でたることは前に既に言ひたるが、右の「英國史」は一五九七年の刊行なれば、沙翁が如何に總ての新刊書類に對して敏感な

りしかの一證とも見るべき點に面白味あり。もつとも沙翁の此作以前に、多少相似たる一作なかりしにはあらず。そは題して「アジンコールの名譽の戦争を含めるヘンリー五世王の名高き勝戦」と表題したる一脚本是れなり。然れども沙翁が此作より得たる所は、僅にヘンリー五世の其王子たりし間の放逸無頼なる生活に關する傳説を劇化せる部分、即ち彼れと追剝との關係、ロンドン市のイーストチープ街なる或酒亭に彼れの出入せし事、彼れの放逸仲間としてのガッツヒル及びフォールスタッフの前身士爵ジョン・ホルドカッスルの名前ぐらゐに止まれり。其他は、假令多少相觸る

る所あるも、そは、要するに、同一傳説に原きて成れる作の自然の結果たるに過ぎず。

「ヘンリー四世」の書下しには、フォールスタッフの役はホルドカッスルの役なりし事、種々の證據ありて、明かなり。何故に役名を改むるに至りしかといふに、士爵ジョン・オールドカッスルはもと實在の人物にして、英國に於ける宗教改革の事に携はり、爲に冤死を遂げ、一方には尊敬せられたりし上に、其子孫尙残り居りしかば、其祖の卑怯陋劣なる喜劇的人物として劇化せらるゝことを黨派心の所爲として憤り、其撤回を手強く要求し來りし結果なるが如し。此作の



「第二部」の閉場詞の中に曰ふ、「フォールスタッフは、佛蘭西へ参りまして、大汗をかいて命を失ひますさうです。もつとも御評判次第で、其以前にも随分絶命に及ぶでございませうが。現にオールドカッスルの如きは殉教者になつてしまひましたやうなわけで、此れと彼れとは全く別人でござひますから」と。オールドカッスルの子孫よりの抗議の一時かしましかりしを想像するに足る。

上演史の上から言へば、此作は、作者生存の當時に在つては、「ハムレット」、「オセロー」等に次いで、最も人氣ありし脚本な

りき。第十七世紀の末までに、此作が、四折本として八種、二折本として四種までも刊行されたりしを以ても、ほゞ其歡迎の度を推することを得。按ふに、其主題が國威光揚時代の國民的好尚に適切なる外國克服の事蹟たりし事——其主人公たるヘンリー五世の、恰も我義經、爲朝もしくは秀吉などに比すべき國家的英雄たりし事——其青年時代の放縱生活に關する有名なる傳説が、極めて愉快に劇化されて、歴史的感興と現實的寫生味とが最も巧妙に調和されたりし事——一轍短慮なる熱拍車、飄輕にして捉へ所の無き放蕩漢フォールスタッフ、鼻赤のバードルフ、威張り屋の

ビートー、饒舌の女<sup>おみ</sup>主<sup>かみ</sup>、俗才子の判事シャロウなどの如き、常に普通の芝居好きに喜ばるべき諸性格の輩出——似せ山賊の活動、同志打の滑稽、酒亭に於ける自墮落生活、駄洒落問答のをかしみ、それとは直反對の激越壯烈なる決戦場の光景等が、其嗜好に於て、我徳川期の江戸市民に類したりし當時のロンドン公衆の各階級に喜ばれたりしに因るならん。

「ヘンリー四世」の第一部が始めて地球<sup>グローブ・シヤター</sup>座にて、一五九七年に上演されし時には、ジョン・ロキンといふがフォールスタッフを勤めたりき。例の瘦せて丈<sup>たけ</sup>高かりし主座俳優リチャード・バーベ

ージは、其際多分王子ヘンリーに扮したるべく、又熱拍車<sup>ホットスパー</sup>の役はジョセフ・テラーが勤めたるならんと推測せらる。ロキンは、其後も引續きフォールスタッフを其持役となして好評を博したりしが、革命以後、ピューリタン教徒が國政を掌り、一切の興行物を禁止するに及びて、俳優を廢業し、ブレントフォードの地に退隠して旅館を營み、傍ら酒を賣り、時に旅客の宴席に侍りて、得意のフォールスタッフ役の白<sup>セリ</sup>を誦しなどして、その興を幫けたりき。彼れは復辟<sup>リステーション</sup>期までも生存し、時の名優ベッタートンに古き英國劇の種々の型を傳授し、且つ沙翁より直接に教へられたる劇の祕訣をも語りたりと

云ふ。

ロキンに次ぐ古きフォールスタッフ役者は、カートラインといふ者なり。彼れはホルボオンの一書肆の主人なりきといふ。其後、ルーシー、ベッタートン、ベーカー、ボエル、クインら皆相ついで名あり。

十九世紀に入りては、「第一部」の上演は、一八四六年のサドラーズ・ウエルズに於けるホエルプスのそれを最初とし、一八四九年のを第二次とす。フォールスタッフの役はホエルプス之を自ら演じたり。彼れは一八五三年に同じくサドラーズ・ウエルズにて、「第二部」をも上演し、おのれは王と判事シャロウとを勤

め、ジョージ・バレットをしてフォールスタッフを勤めしめき。一八六九年には、マンチェスターにてカルエルトの復演あり。カルエルトはフォールスタッフに扮したり。

米國にても、十八世紀の後半以來、屢第一部をも第二部をも上演し、その都度相當に評判となれるフォールスタッフを出だせり。一八七一年に死せしハケット、一八六九年に始めて第一部のフォールスタッフを勤めしヘンリー・ジャックの如きは其錚々たるものなりきと云ふ。

上に記せる如く、此作は、前は「リチャード二世」に、後は「ヘンリー

五世に接続せしめらるゝに及びて、始めて完本ともなる史劇なれば、其背景となれる史實其者も、リチャード二世王紀よりヘンリー五世王紀に互れること論なし。讀者の参考に便せんため、左に史蹟の大要を叙す。

紀元後一三七七年英國王エドワード三世祖して其嫡孫リチャード二世繼げり。リチャードは有名なる黒太子ブラックプリンスの男にして、少時には屢々豪邁の氣象を現し、父祖の英風ありとして、貴族及び平民の信望を博したりしが、長ずるに従ひて漸く酒色に親しみ、奢侈を好み、多くの小人を嬖幸せしかば、國政甚しく亂れ、先づ大いに貴族の反感を招けり。王に叔仲伯季あり、季父オマのオマグロスター公トマス最も名望あり。貴族ら公を推して黨首となし、一三八七年、議會の決議を経て改革を斷行し、王の嬖臣らを誅戮すると同時に王をして其大權を新任の攝政グロース

ター公に譲らしめたり。然れども王は一年有半の蟄伏の後、猛然起ちてグロスター及び其黨與より成れる内閣を覆し、更に叛逆罪を名として、公を佛國カレーに幽し、後、人をして寤かに之を殺さしめき。以上は「リチャード二世」に脚色せられたる事件以前の史蹟なり。

政權を復して後、王はますます無道の行ひ多く、日夜宴樂に耽り、財用に窮するの餘り、屢々口實を設けて或は貴族の領地を奪ひ、或は民財を沒收せり。一三九八年王の仲父オマのオマランカスター公ジョンガント瘦人の子ヘンリー・ボリングブロッグが事を以てノオフォルク公トマス・モウブレイと爭議を醸し、公式の決闘によつて其正邪を明かにせんとするや、王、一旦は之を許しながら、突然不當の罪名を附して二人を國外に放逐せり。而して其翌年ランカスター公の逝るや、ヘンリーの滯外中なるを奇貨として悉く其采邑を沒收せり。是に於て、ヘンリーは、佛のアルターニユ公の援け

を借り、父の遺領を受くるを名として兵を起し、王が愛蘭征討のため不在なるを窺ひて、英國に上陸せしが、豫て王に快からざるノオサンバランドの領主パーシー家の一族を始めとしてヘンリーに加擔する者多く、剩へ王の留守を預りたりし王の伯父ヨオク公エドマンドまでも叛軍に與するに至りしかば、リチャード二世は窮困の極、フリント城に於てヘンリーの手に落ち、遂に迫られて位を彼れに譲りぬ。後幾くもなく、王は其幽所に於て弑せられしかば、所謂普蘭塔ゼネトの正系は爰に絶えて、爾來ランカスター家の世となりぬ。

### 以上を「リチャード二世」の骨子となれる史實とす。

一三九九年リチャード二世の廢せらるゝや、ヘンリー・ボリングブロック、王位を繼承してヘンリー四世と稱したり。王は好運にして容易に王冠を得たりきと雖も、其境遇は決して羨むべきものにあらずりき。其在位の間は殆ど寧日無き程に叛亂絶えず、種々の陰謀相次いで起りたり。

王は之を鎮壓するため日夜身神を過勞し、其晩年には全く安眠する能はざるに至れり。王の最も恐れたりしは其叔父クラレンス公ライオネルの遺子エドマンド・モオチマーなりき。然るは、當時の王位繼承例によれば、モオチマーの權利は王のそれに優りたればなり。次に王の憚りしは、ノオサンバランド伯の一門なりき。こは、彼の北條氏の一族が頼朝に於けるが如き義理合を有したると同時に、當年の秀衡一門に比して優るとも劣らざる北方の強族たりし故なり。然るに此二大強敵は、ウエールスの豪族オーエン・グレンダワー及びスコットランドの驍將、伯ドークラスと結託して、叛旗を翻すに至りたり。幸ひにして叛軍の計議合期せずして、ドークラスとノオサンバランドの嫡子ヘンリー熱拍車のみが先づ出陣し、ノオサンバランドもグレンダワーも未だ兵を進むるに及ばざるの時、王の全軍は殺到し、一四〇三年七月二十一日シユリユースベリー原に於ける一戦に於て、一擧に叛軍を敗り、敵將熱拍車を討取れり。此時

ドーグラスは、單騎王を附け規ひ、王に假裝せる影武者數人を殺せしが、遂に力盡きて捕虜となりぬ。

### 以上を「ヘンリー四世」第一部の史要とす。

王は舊恩を思ひて、伯ノオサンブランドを誅せんとはせざりき。然るに彼れは一旦赦されて後、更に叛きて成らず、遂に國外に走りて殺されたり。グレンダワーも亦屢戰つて屢敗れ、同じく外國に放浪して其終る所を知らず。ヨオグの大監督スクロップ、伯トマス・モウブレイらも亦叛を謀りしが、孰れも功を成す能はざりき。王の世子ウエールス公ヘンリーは、シユリユースベリーの戦ひには初陣として參與し、グレンダワーの征討には其總督として出陣せり。英邁勇敢にして善く兵を用ひ、後に王位を繼承するに及んでは、エドワード三世以後の英主を以て聞えたりしが、其年少時代には、放縱不羈、毎に悪友を近づけて陋巷惡所に入出し、流連荒亡し、時に暴横の振舞ありき。或時其悪友の一人、公道に

出で旅人を脅して財を奪ひし科によりて捕へられ、當時硬直の聞えありし判事ガスコインの審問を受けたり。之を聞ける王子ヘンリーは、直に法廷に闖入し、手強くガスコインに其友の放免を迫りたり。然れども判官は頑として應ぜざりしかば、王子は激怒して無法にも拳を以てガスコインを打てり。ガスコインは、嚴然として、是れ職權上假借すべからざるの罪なりと傲して、即座に王子を捕へて獄に下せり。既にして王子も亦自ら其罪を覺り、甘んじて刑に伏しぬ。王ヘンリー四世斯くと傳へ聞きて曰く、あゝ、朕は幸ひなる哉、剛毅にして法を枉げざるの臣あり。又國法を重んじて甘んじて罪に伏する子あり」と。

ヘンリー四世には、卒中の持病ありしが、晩年に至りては、其發作頻りにして、其都度、人事を辨ぜざりき。其頃は王の猜疑心絶頂に達し、常に篡奪者の出でん事を恐れて安眠を得ず、偶、眠る時も、必ず王冠を枕頭に置くを例としたり。一日、王例の病ひを發して昏倒す、端な

く其室に入り來りし王子ヘンリーは斯くと見て王既に死せりと思ひ、つと王冠を取りて室外に去りぬ。既にして王は我れに復り、王冠のあらざるを見て駭き、左右に問ひ、王子の取り去りしを知るに及びて歎息し「あゝ、兒よ、予自身の王冠に於ける權利すら其實空し。汝何の術あつて之を保有せんとするか？」といひしに、王子言下に「王既に劍を以て之を得たり。兒も亦劍を以て之を保持せんのみ」と答へければ、王怡然として曰く「可し。汝の意に任さん。成敗は天に在り、願はくば、神よ、我靈魂を憐みたまへ」と。一四一三年三月王歿す。王子ヘンリー繼ぐ。之をヘンリー五世と稱す。

「ヘンリー四世」第二部は、ヘンリー五世の即位を結末とす。

大正八年六月下旬

譯者識

### 登場人名

王ヘンリー四世。

ヘンリー、ウエールスの公爵、四世王の世子。

ジョン、ランカスター卿、四世王の第二子。(實は第三子に當る)。

伯爵ウエストモアランド。

士<sup>サ</sup>爵ウオルター・ブランド。

ウーセスター伯、トマス・パーシー。

ノオサンバランド伯、ヘンリー・パーシー。

登場人名

ヘンリー・パーシー、綽號して熱拍車ホットスパーと云ふ、ノオサンバ

ランドの男。

エドマンド・モオチマー、マーチ伯。

リチャード・スクロープ、ヨオクの大監督アイチビシヨフ。

ドーグラス伯、アーチボルド。

オーエン・グレンダワー。

士爵リチャード・ヴァノン。

士爵ジョン・フォールスタッフ。

士爵マイケール、ヨオクの大監督の同志。

ポインズ。

ガッツヒル。

ピートー。

ードルフ。

パーシー夫人、熱拍車ホットスパーの妻、モオチマーの妹。

モオチマー夫人、グレンダワーの女、モオチマーの妻。

内儀クィックリー、イーストチープの酒亭の女房。

其他、貴族、役人、町奉行、酒商、侍従番頭、給仕人、擔夫、旅人、侍者等。

場所 英國。





# ヘンリー四世

(第一部)

第一幕

第一場 ロンドン。王宮内。

英國王ヘンリー四世、其第三の王子  
ランカスターの公爵ジョン、侯爵ウエ  
ストモリアランド、士爵ウオルター・ブラ  
ント及び其他出る。

王

内憂の爲に惱亂疲憊した際であるから、悸えてゐる平和に暫時息をする餘裕を與へて、遙かの海外で開始さるべき新戦役の噂でも、息ぜはしく語らせることにしよう。もはや二度とは此國土をして、がつくと其子供らの血を啜らしめて、唇を汚さすやうなことはさせまいぞ。もう二度とは烟地を戦争の爲に掘覆させたり、相戦ふ軍馬の蹄で千草の花を蹂躪らせるやうなことはさせまいぞ。天變で現れる光り物のやうに敵視の眼を輝かして、同姓同質の仲らひのものが、つい此間までは、骨肉相屠る惨烈な内争を事としてゐたのだが、今は漸く似つかはしく睦み合つて、知人同士、親族同士、身方同士が相闘ぐやうなことはなくなつた。もう、鞘の出來のわるい小刀のやうに、持主を傷つけるやうなことはあるまい。斯様な現狀である以上、諸卿よ、吾等は、有りがたい基督のおために、これから聖廟の所在地までも出張して、戦争をしようと思ふ。すなはち英兵の一大隊を徵集

せねばならん。苟も英國人と生れた者は、其母の胎内にゐる間から、彼等異端の徒を彼の聖地から追拂ふべき任務を荷つて生れてゐるのである。彼の尊きお方は、今を隔ること一千四百餘年前に彼地を踏せられ、吾々の爲に無慚な十字架に掛からせられたのである。併し、此計畫は、もう一年も前からの事で、改めて言はずとも、出陣は諸卿既に熟知の事である。随つて、今日の會合は、その爲ではない。……で、ウエストモアランド卿、先づ足下に聴きたいのは、此緊急な計畫の進捗に關して、議會が昨日如何決議したかといふことである。

ウエス

御前、その儀に付きましては、種々熱心な評議の末、軍資の如きも、昨夜議定せられましたのでございますが、折から横紙破りに、ウエールスから甚だ不幸な報道を滿荷したる所の急使が到着いたしました。就中最悪な知らせは、モオチマー伯がヒヤフオードシャーの兵をひきゐて、彼の放逸無法な

ウエールスのグレンダワーを征討せられましたところ、却つて彼れが暴手に捕虜となられ、伯の部下一千餘人は虐殺に逢うたといふ報道でございます。それから、兵士の死骸に對してウエールスの女共が加へました残忍破廉恥の侮辱は、之を口にするを憚る程であると承はりまする。

王

では、其知らせが來たので、聖地へ出陣の件は中止となつたらしいなう。

ウエス

さやうでございます、その上に尙他の件が添ひましたので。と申すのは、それよりも更に厄介な、不吉な報告が北方から參りました。それは斯様でございます。去る聖架節(九月十四日)に、彼地滞在中の、例の勇敢な「熱拍車」、パーシーの息ハーリーが、彼の有名な猛伯爵アーチボルド(ドーグラス)とホームドンの丘上に於て慘烈なる一戦に及びましたところ、それを、其砲撃の激しさによつて、推測いたして、先刻或者が報道してまゐりましてございます。もつとも、其者は其激戦の最中に馬を飛ばせて參りました

王

ので、其後の形勢は心得てをりません。

(徐かに士爵ブラントを見返つて) いや、實は、爰にゐる此忠勇無二の士爵ウォルター・ブラントが、今ちやうど、其ホームドンと此王座との間の土煙で汚れた汗馬から下りたばかりの處だ。さうして、愉快な、めでたい報告を持つて來てくれた。すなはち伯ドーグラスが敗北して、一萬人の蘇國兵と二十二人の武士とがホームドンの原上におのが血に浸つて累々としてゐたのを見て來たのだ。「熱拍車」はファイフの伯モオデーク、すなはち敗たドーグラスの長子をも、アソルの伯をも、マールレーやアングスやメンテイスの伯をも捕虜にした。これは實に立派な戦利品ではないか? 名譽の獲物ではないか? え! どう思ふね?

ウエス

全く、王侯の誇りとも遊ばさるゝに足る勝利だと存じます。

王

さうだ。で、わしは情けなくなつて、あゝいふ息子の父たる幸福を得てゐ

るあのノオサンブランドが嫉ましくなる。名譽な噂の主題となる息子の父！林中で第一等の眞直な名木、運命の女神の祕藏兒でもあり誇りでもある息子の父！彼れの譽れを見聞くにつけて、わしは倍々倅ハリーリの面上の、あの放逸無頼の不名譽が目についてならん。あゝ、眞夜中に飛び歩くといふ或豆仙女が襠褌に包まれてゐたうちに、雙方の子供を取換へてくれて、わしのバーシーを彼れのブランドジェネットと呼ばせてくれたらよかつたに！すれば、彼れのハリーリがわしになつたのであらうに。……侯爵、貴下は如何思ふね、あのバーシーめの尊大さ加減を？彼れは、此一戦で捕へた捕虜は自家の用に手許に留めておくと云つて、ファイフの伯モオデークの他は、一人もわしの手へは渡さんと言つてよこした。それはきつと彼れの伯父の入智慧でございませう、あのウーセスターは、何かにつけて、陛下に悪意を有つてゐます。で、羽ばたきをして、あの若者

ウエス

の肉冠を陛下に向つて逆立てさせようとしてゐるのです。

王

とにかく来て言ひ開きをせいと云つてやつておいた。それこれ、ジェルザレム征討の神聖な計畫は、暫時中止しておかねばならん。……侯爵、次の水曜日にはウインゾアで議會を開くことにするから、其事を貴族一同へ傳へておいて下さい。が、貴下は急いでわたしの許へ来て貰ひたい。まだ他に、一旦の怒を鎮めておいて、いふべき事や爲すべき事がいろいろあるから。かしこまりました。

ウエス

皆々入る。

第二場 ロンドン。王世子ヘンリーの居室。

王世子ウエールスの公爵ヘンリー（親しみてはハリーとも更に略してハルとも呼ぶ）と其放逸仲間の紳士フォールスタッフと出る。フォールスタッフは六十歳近い勳士爵だが、氣の若い、おそろしく肥満した放蕩者である。

フォール

おい、ハル、もう何時だい、晝のッ。

王子

古い酒にすらひ酔つたり、夕食が済むと直に鈕を脱したり、午が過ぎるや否腰掛で寝込んだりするもんだから、お前は馬鹿になっちまつたね、お前が當然聞くべき筈のことを聞かないのは。晝の時間なんか聞いて如何するんだ？  
時間が酒か鶏肉であるか、掛時計が妓夫の舌であるか、日時計が

フォール

淫賣屋の招牌であるか、或はあの有りがたい太陽が燃え立つやうな琥珀織を着た小綺麗な肉的女で、ももありや格別だけれど、お前が晝の時間なんか聞くなア餘計なことだよ。

感心！ お前も大分通になつたよ。掠奪を専門にする此方共には、月や

七つ星が保護者様だ。大日輪さんはお間だ、（と一寸鼻唄氣分になつて）「あちら

こちらを遍歴なさる」あのお立派なお武士は！ ねえ、馬鹿君さん、どう

かねえ、足下が王さんに……叡聖なるハリー陛下になつたらねえ……

いや、えいせいなるとは言へないや、お前はあんまり衛生家でもないから。

ないとは？ どうして？

王子

ないとも。酒は飲む、夜深しはする……

フォール

だが、それが如何したといふんだ？ え、おい？

王子

外ぢやアないがね、え、馬鹿ちゃん、足下が王になつたらねえ、夜中のお武士

である我輩らを晝間の怠け者扱ひにさせないやうにしてくんなよ。此方  
らは姪嬢さんのお組下で、暗がりのお武士で、間夫兼帯で、お目溢しで盗賊  
商賣をしてるんだ、傍次第で、海がああの高気高い清いお月さんの言ひなり放  
題になるやうに、随分身持をよくもして行く手合だと言ひ觸らしてくんな  
よ。

王子

さうだ、其通りだ。お月さんの家来だけに、こちららの懐具合は、海と同  
様に、月の加減で満潮になつたり、干潮になつたりするからね。其證據は  
だ。そら、あの月曜日の晩に遮二無二ふんだくつたあの金財布は、火曜日  
の朝めつちやくちやにふん使つてしまつたらう。「出しやアがれ！」と怒鳴  
つて奪つた奴を「おい、持つて来い！」とわめいて使つちまつたらう。さう  
して今は九つ階子の最底まで引汐といふ爲體だ。此次の上潮にや必定絞  
罪臺の梁までも上つて行くだらうせ。

フォル

おやく、中々巧いことを言ふね。時に、あの酒店の内儀は、如何にも口  
あたりの好い代物ぢやないかい？

王子

あゝ。ハイブラの蜂蜜のやうにね。それからあの、野牛の皮の服(四人服)  
てのも、持がよくつて、いかにも肌ざはりがよさうだねえ。

フォル

おやく、馬鹿ぢやん！ 何だ、その洒落は？ 其團子理窟は？ べらば  
うめ、野牛の皮の服がおれにどんな因縁があるんだい？

王子

ぢや、如何いふ因縁で、おれがああ酒店の内儀なんかの噂を聞かなけりや  
ならんのだい？ 馬鹿な！

フォル

だつて、何だらう、お前は彼女を呼んで折々支拂ひをするだらう。  
只の一度だつて、お前の分をお前に拂はせたことがあるかい？

王子

ない、決してない。みんなお前が拂つてくれたよ。  
無論。其他、どこへ往つた時にだつて拂つたよ、おれに金がある限りは。

フオル 金がない時分にや、おれの信用を利用するのが定例だらう。

さうさ、殆ど極度までもだ。で、若しかお前が「儲けの君」として世間に待設けられてゐなかつたなら……いや、それはさうと、馬鹿ちゃん、お前が王さんになつたつても、此英國に絞罪臺を存しておく積りかい？ 法律といふあのふざけた老爺の錆びた銜鍔で、勇士をごちやまかしてしまふ料簡かい？ ねえ、お前の代になつたら、盗賊を絞罪にするのはよしなよ。

王子 おれはしないよ、けれどもお前が其役をするだらうぜ。

フオル おれが？ お、素敵々々！ それこそ名判官が出来るだらう。

王子 もうそれが誤判だ。おれは、お前はきつと絞罪係りを勤めるだらうが、それは素敵な適任だと言つたんだよ。

フオル うん、成程、うん。ハルや、さう聞いてあんまり悪い氣持もしねえな、とにかく役所へ出頭といふ譯なんだからな。

王子 就任の沙汰にでも有り附かうといふのかり。

フオル なアに、囚人の被たのに有り附かうといふのよ、死刑囚の古着は悉皆役徳になるんだからな。(俄におそろしく萎れて)あ、けふは實に情けなくなつちまつた、まるで爺猫か、引摺廻された熊のやうに。

王子 で無きやア、耄けた獅子か、戀狂人の弾く琵琶のやうに。

フオル 全く。で無きやリンコンシャアの囊笛よろしくだ。

王子 ちや、兎の如くは如何だい？ あのムーア掘の情けなさ宜しくは如何だい？

フオル お前はいやに面白くもない比喩ばかり記え込んでるねえ、おそろしく見立上手の、ろくでなしの、お結構な若君さまてのはお前のこつた。だがハルや、頼むから、もうそんなくだらないこと言ッこなし。實際、近頃ア、おれも、お前もだ、どうかして、もう些と好い噂をされるやうになりたいもんだと思つてるんだ。樞密院の或老議官が、此間、往來で以ておれを怒鳴附け

やがつた、お前のこつてよ。おれは、全然關ひつけなかつた。けれども奴め、賢人振アがつて、べらくと喋舌り立てやがつた。けれどもおれは知らん顔をしてゐた。それでも奴ア、尙べらくだ、賢人ぶりやアがつて、而も街の真中でよ。

王子

お前の其行爲は當を得てるよ。「賢人街頭に叫ぶと雖も、人は之を意に介せず」とあるからね。

フォル

しやうのない、口眞似坊主の揚足取が！其口にや聖者だつてごちやまかされてしまひさうだ。お前はどの位おれに悪感化を興へたか分りやアしないぜ。天罰がお前に當らなけりやアいゝがなア！ハル公、おれはお前と知合にならなかつたうちは、無邪氣なもんだつたが、今ぢや、正直、悪黨仲間だといはんけりやならん。もうこんな生活は廢めんけりやならん。おれは最早止めるよ。誓つた。廢めなけりや俺は悪黨だ！地獄

王子

に落ちるのは否だ、基督教國の王子さんの爲にだつて、否だ。

フォル

(わざと突然に) おい、ジャック、明日ア、どこで行らう追剥を？  
(俄に元氣づいて) 何處でだつて關ふもんか、お前が出掛けるなら、何處へでも出掛けるよ。

王子

も悪黨扱ひにするが、いや。感心、忽ちのうちに生活の改良に及んだね、お祈禱を廢めて追剥へ。





フォル　だって、ハル、こりやおれの職務だアな。職務に努力するの、決して罪悪ぢやアないや。

無頼 仲間のポインス出る。

ポインスが来た！……ガッツヒルの奴がいよく張込んだか如何だか、奴に聞きや分るだらう。……あ、人間てものが功德次第で救はれるものなら、奴なんかア（とポインスを見つ）どんな焦熱地獄へ落ちたつて足らねえくらゐだ！「待てッ！」と正直者を威嚇し附ける悪黨仲間、奴ア横綱といふ格だ。

王子　（ポインスを迎へて）お早う、ネッド。

ポイン　お、ハルさん、お早うござい。……（フォールスタッフに）おい、どうだね、後悔堂先生？如何な御機嫌だね、酒と砂糖のお武士さん？おい、ジャック、例の悪魔との靈魂の取引で奴は如何したね、先の受苦日に、お前は奴にマデ

イラ酒一盃と鶏肉一斤とで靈魂を賣ちまふ約束をしたゞらうぢやねえか？

王子　士爵ジョンは約束を違へるやうなことはしないよ。きつと悪魔に靈魂を與ちまふだらうよ。諺通りの先生だからね。「與るべき物は悪魔にも」といふ諺があるだらう。

ポイン　ぢや、お前は（とフォールスタッフに）地獄へ落ちるね、悪魔との約束を履行したといふ科で。

王子　で無きや悪魔をさへ騙したといふ科で、地獄へ落ちるだらう。

ポイン　おい、兩大將、それはさうと、明日の朝は、四時の起きがけにガッツヒル（地名）だぜ！すばらしい納め物を荷はせた參詣人共がカンタベリーへやつて来るし、それに商人共が、財布をみっちり脹まして、ロンドンへ上つて来る。おい、覆面は、衆のを持つて来てやつた。馬はめい／＼持つて

るだらう。ガッツヒル(人名)は今夜もうロチェスターに泊り込んでゐる。明日の晩餐まで既うちやんとイーストチープで準備させておいた。一眠するよりも間違ひっこのない仕事だ。一しよに行く氣なら、お前たちの財布はおれがきつと金貨で一ぱいにしてやるんだ。否なら、後に残つて、縊殺されてしまひな。

フォル おい、エッドワード。もしか俺が往かねえで残つてるやうなら、往つたつて科で、汝を縊殺させてくれるから然う思へ。

ポイン なに、お前が? 此肉の塊り野郎め!

フォル ハル公、おい、お前も行くだらう?

王子 え、だれが? おれが、追剥を? どればうを? いやなこつた。

フォル ちや男一疋とは言へねえ、友達甲斐もねえてもんだ。十シリングだけの働きも出来ねえやうちや、逆も頭に金貨(金冠)ンを載ける人にやなれねえ。

王子 ちや、たつた一度ッきり狂人仲間へ入らうか?

フォル ようく! さうなくッちやならねえ。

王子 いんにや、おれは、どうしたつても、後に残つてる。

フォル ちや、俺、謀叛するよ、お前が王さんになつた時分に。

王子 かまふもんか。

ポイン 士爵ジョン、關はず俺と王子さんとを置いて行きなよ。後で俺が、いろいろ利害を説いて、一しよに出掛けなさるやうにするから。

フォル どうか神さまがお前に巧い辯口を、又ハル公にや聞分の好い耳をあてがつて下さりやいゝがなア。さうすりや、話が腑に落ちるだらうから、正眞の王子さんが、お慰みの爲に賈物の盜賊におなりなさらうといふものだ。上流衆を身方にせなけりやア相應な悪事も出来ねえ。……さよなら。イーストチープで待つてるぜ。

王子 さよなら、爺さん青年！ さよなら、小春日和どん！

フォールスタッフ入る。

ポイン さア、御前さま、若君さま、一しよにお出掛なさいまし。わっし一人ぢや出来ませんが、面白いことがあるんです。フォールスタッフとボードルフトとビートルとガッツビルとが豫て張込んでおいた旅人共を剥ぎませう、御前とわっしとは故つと其場所へは出會はないでゐて、奴等が仕事をしつちまつた時分に飛込んでつて、其獲物をふん奪らうてんでさ。萬一にも、それが間違ふやうでしたら、此首をお取んなすつて下さい。

王子 どうして別になる、奴等とッ。

ポイン なアに、奴等より先か後かに出掛けることにします。出會ふ場所だけを定めといて、さうして故つと出會はないやうにします。そこで奴等だけで仕事をさせて、さうして其仕上げた時分に襲つてくれませう。

王子 だって直に分つちまふだらう、俺たちだてことが、馬や被服や何かで。

ポイン 何の！ 馬なんざ見せやしませんや、森中に繋いでおきますから。覆面も、奴等に分れてから取換へます。それから又、豫て其爲に準備しといたゴム引の革合羽で奴を引被けますから、定例の上ぱりなんか見えっこなしでさ。

王子 だけれど、彼方は四人だのに、此方はたつた二人だらう。

ポイン 何、貴下、あの中の二人は生れ附の臆病者で、逃げるのが専門でさ。三人目と来ちや、たかゝ二打三打でさ。それ以上抵抗するやうだつたら、わっしは速かに武士を廢めます。ねえ、此滑稽の妙味は、あの肥ッちやうの悪黨めに、晩に一しよになつた時分に、滅法界もねえ大虚喝を喋舌くらせる點にあるんでさ。奴め少くとも三十人を相手に働いたとか、危く突通される所を、如何ひッばづして如何受けたなぞと、出放題な虚喝を並べるの

を、後で種明しをして、鼻づら磨り上げてやるのが滑稽でさ。

王子 うん、ちや、お前と一しよに行かう。必要な物を準備して、明日の晚イー

ストチーブへ來な。あそこで夜食をするから。さよなら。

ボイン 御前、さやうなら。

ボインス 入る。王子只一人残りて、思入あつて

王子 汝らの性質はよく知つてゐるんだ、けれども、當分の間、わざと勝手放題

な放埒をさせておくのだ。譬へば、太陽が、一時は醜い雲や靄に其麗明を

壓殺させてしまひさうに掩はれてゐながら、いざ照らす必要が有るとなる

と、突然其穢い雲霧から躍り出でて、世界に一驚を喫せさせる如くに、世間

の者を駭かさうといふのが俺の肚だ。一年中が祭祀日づくめであつた

ら、遊ぶのが働くのと同じに煩くなるだらう、けれどもそれが待焦れられ

る程に稀だから好いのだ。何でも稀に起る事が喜ばれる。だから、俺が

此放埒な生活を急に止めて、意外な負債を償還する段となつたら、それが  
豫想外であるだけに、欺された奴等が驚き喜ぶだらう。陰暗な地金へ黄

金の象徴といふ格で、俺の心機一轉が、前々の不品行があるだけに、一層き

らめいて衆目を駭かすだらう、照り合す地金のない場合よりも。俺は、所

詮、方便に悪い事をしてゐるのだ、今に、世間の奴らが、夢にも思がけてゐ

ない時分に、生れ變つて見せてくれる。

入る。

第三場 ロンドン。王宮。

ヘンリー四世王、つゞいてノオサンバランド伯、其弟ウーセスター伯、ノ

オサンブランド伯の男ヘンリー・パーシー(綽號熱拍車)、士爵ウォオルタ  
ー・プラント及び其他出る。

王

それほどまで侮辱を受けて平氣でゐたのは、自分ながら冷静に過ぎ、寛大に過ぎてゐた。足下たちはまた、それを豫め見て取つて、敢て侮辱を加へたのであらう。向後は、自覺して、生來に背いて、足下たちに畏れ憚かられるやうにする積りだから、然う思ひなさい。油のやうに滑かに、籬の柔毛のやうに柔かな生來の爲に、當然受くべき尊敬を失つたのであるから。傲慢な輩は、傲慢な者にのみ敬意を表する習ひだ。

ウーセ

(憤激して)陛下、自分ら一家の者に限つて、大權の所有者からお叱りを蒙る筈はございません、殊に其所有者が其大權を所有せられるに至つたのは、主として我黨の後援の力であつた場合に於ては。

ノオサ

御前……

王

(ウーセスターに)ウーセスター、退席なさい。足下の眼中には、危険な、悖戾の色が見える。おゝ、一體、足下がこゝへ出て來るといふのが大膽過ぎる。王たる者が其臣下に怒つた顔を差向けられるといふことは、忍ぶべからざることである。よろしい、速かにお退んなさい。用があれば、迎ひにやります。……

ウーセスター！佛然として入る。

ノオサ

(ノオサンブランドに)何か言ひかけなすつたなり？

はい。……え、陛下が、過般御要求になりました、倅ハーリー・パーシーがホームドンで捕虜にいたしました者共の件は、倅の申す所によりますと、決して、陛下のお耳に達したやうに、さやうに手強く御拒絶申した譯ではなかつたらしうございます。すなはち何等かの悪意か誤解か其間に存

熱拍車

するのでありまして、俵の興り知らぬことのやうに承ります。

御前、捕虜のお引渡しを否んだ譯ぢやありません。ですが、たしかあの時は、ちやうど激戦が済んだばかりの時、怖ろしく息が切れて、疲れてましたから、劍を杖にして休んでゐたのです。すると、そこへ、まるで花婿か何ぞのやうに、いやに飾り立てた一人の貴族がやつて來ました。願は刺立で、收穫時の刈株畑よろしくて奴で、化粧品屋の若い者のやうにふんぶん香水を匂はせて、指先にや香料匣を摘んでゐて、時々それを鼻の先に當てたり離したりするんで、鼻も腹が立つと見えて、二度目にやふんと鼻であしらふ。其男は始終にや〜と笑貌をして喋りつゞけ、兵卒が死骸を擔いで其前を通つたりすると、風上から穢らしい物を鼻の先へ持つて來るとは無禮だ、不躰だなぞと罵りました。手前に物をいふ時なんぞ、餘所行仕立の奥御殿言葉で奴を使つて、べら〜べら〜、つまり、其序に、



陛下のお爲に捕虜を引渡せとか何とか言つたのでした。ちやうど傷口が冷えて來て、痛い最中に、氣障な鸚鵡野郎と來たのですから、つい忍耐が出來なくなつて、半夢中で好い加減なことを言つたのでした。捕虜を持つて行けと言つたつかけか、持つて行くな、と云つたつかけか、覚えてません。いかにも機敏らしく、さうして芬々匂はせて、奥女中のやうな口吻で、大砲の事や陣太鼓の事や手傷の事を喋るのを聞くと、堪らなくなつたからです。……こたへ

られないや！……手傷には鯨腦油ぐらゐ無上い薬品はござんせんですよ」とか、「何等の悪意もなき地腹から、あの怖るべき硝石なるものが發掘されて、卑怯なる飛道具の料となつて、幾多の勇士を斃すとは、實に淺ましい次第です、あの銃砲さへ無くば我輩と雖も敢て武人になつたのですが、なぞと言やアがつて。さういふ無茶な、滅裂な駄辯に對して、ついその、今申したやうに、好い加減な返辭をしたのでした。ですから、そいつの言つた事なんかを證據に、陛下に對する手前の忠誠をお疑ひにならないやうにお願いひします。

フラン

御前、只今のお話で、事情を考へ合せますと、ハーリー・パーシーどのが、其際、其場で、どう其仁に返答せられたに致せ、それは當然消滅に歸すべきものかと考へます。殊に自身で否認せられます以上、其際申されたことに何等の不都合もなかつたことと心得ます。

王

(アラントに)だが彼れはまだ捕虜を引渡さうとは言はない、此際其交換條件として、予が償金を支出して、彼れの義兄の、あの愚者のモオチマーを直に敵から身受けしてやらない以上は。あのマーチ伯モオチマーめは、あの憎むべき魔術使ひのグレンダワーを征討にといふは表向きで……現に最近彼れの女と結婚したと聞いた……其實、故意に其部下の兵の生命を失はせとも同様の事をしをつた。さういふ謀叛人を身受けするために、え、官庫を空にすることが出来るか。奴らは自ら好んで、わざと敵の手中に落ちたのだ、さういふ怖ろしい仇敵共と地道な取引が出来るか。いゝや、彼奴の如きは、荒山で飢死させるが當然だ。叛賊のモオチマーを身受けするための費用を一錢たりとも乞ふ者を予は親友と思ふことは出来ない。(憤然として)叛賊のモオチマーですと！陛下、彼れは決して謀叛したのぢやありません、ありや全く負け軍の不祥たるに過ぎないのです。それを

熱拍

證明するには、只一枚の舌がありや澤山です、あのくわつと開いてゐた無数の傷口が物をいひます、あのセザン河の葦の茂つた堤の上で、彼れとグレンダワーとが人交もせず一騎打の勝負をして、何十分と勇敢に戦つた時に受けた傷口が好い證據です。三度まで息休めをしたのです、三度までセザンの急流の水を飲んだのです、互ひに承諾の上で。さすがの急流も、二人の血みどろな面を見ては慄え上つて、慄えてゐる葦の茂みをおつかなさうに突走つて、勇士と勇士の血で眞赤になつてゐる堤の凹みへ、其縮れ頭を突込みくしたと言ひまさら。卑劣な計略で、あんな怖ろしい手傷を負つた例なんかあるもんですか？ 況んやモオチマーが、あんな傷を求めて負ふ筈はありません。逆心あつての事だなどといふのは、全く讒誣の沙汰です。

王  
バーシー、それは虚偽だ、お前の拵へたことだ。彼れは決してグレンダワ

ーと一騎打なんかしやアしなかつた。あのグレンダワーを敢て敵とする程の勇氣がありや、随分悪魔とも一騎打をしたらうが、それは決して無いことだ。おい、恥を知りなさい！ なう、以後はもう決してモオチマーの事は、言はんやうにして貰はう。捕虜は出来るだけ早く送りなさい。で無いと、面白からん沙汰を予の口から聽かんければならんやうになるであらう。……ノオサンブランド卿子息と一しよに、何時なりと、出立なさい。……捕虜を送つて下さい。で無いと、沙汰をしますぞ。

王  
ヘンリー、プラント及び従者ら入る。

熱拍  
假令悪魔が来て怒鳴つたからつて、捕虜なんか渡すもんかい！ すぐ追掛けて行つて、然ういつてやらう。首が飛んだつて關ふもんかい、此胸を透してくれう。

奥へ行かうとする。



ノオサ (止めて) えい、逆上でもしたか? まゝ、待ちなさい。…(一方を見て) あ、叔父貴が来た。

ワーセスター又出る。

熱拍

(獨語的に) なに、モオチマーの事は言はんやうに! 畜生! 言はなくって如何するもんか! おれの靈魂は地獄へ墮ちまへ、若し俺が彼れと合體しなかつたら。さうだ、おれは彼れの爲に、此血管を空にしなくつちやアおかない。おれの血の有つたけを傾瀉けても、あの蹂躪れてゐるモオチマーを、あの恩知らずの王めの、あの忘恩の奸賊ボリングブロックめと同じ高さの位置まで持上げにやアおかないぞ、うぬ!

ノオサ

(ワーセスターに) 弟、王はお前さんの甥を狂人しつちまつたよ。

ワーセ

(熱拍車に) ちよつと彼方へ往つてた間に、だれが如是騒ぎを起したのだい? 奴め、すぐに捕虜を残らず引渡せと言やがるんです。で、わたしは、改めて

熱拍

義兄の償金の事を力説しかけたのです。すると、奴め、頬の色を眞蒼にして、じつとわたしを睨んで、モオチマーの名を聞きたびに、ぶる／＼慄えてゐやがるんです。

ワーセ

そりや其筈だ。モオチマーは、故リチャード王の宣言によると、最も王位に近かるべき血統の人だからなア。

ノオサ

其通り。わたしは現に其宣言を聞いたよ。が、それと同時に不幸な故王は愛蘭征討に…あゝ吾々にも罪がある、神よ何卒お赦し下さい! ……出發された、さうして途中で遮られて、歸京されるやいな位を廢され、やがて虐殺に逢ひなすつた。

ワーセ

さうして其虐殺が原で、吾々は世間の口の端に掛つて、さん／＼に悪口された。

熱拍

あ、ちよつと。それちやア、あのリチャード王は、義兄のモオチマーを王位

の繼承者にすると宣言せられたのですか？  
うん。それは俺が慥かに聞いた。

熱拍

ぢや、無理もないや、モオチマーの近親のあの王が彼れを荒山で飢死させたいと言つたのは。それはさうと、貴下達は、よく平氣でゐられますね、あの恩知らずの頭へ王冠を載けてやつて、そのお庇で弑逆の醜名まで背負つて、さんざっぱら悪口雑言されて、よく平氣でゐられますね、やれ、手先だの、下働きたの、繩だの、階子だの、絞罪係だのと言はれて？ や、失禮！ かういつちや些と言ひ過ぎかも知れません、けれどもあの老獪な王に對する貴下がたの位置、關係は、まアさうなんだ！ 貴下がた程の人達が、不正な目的のために、名譽、權力を質にしたていののは……あ、神よ救したまへ！……あの薔薇のやうな、可憐しいリチャードを押倒しといて、あの荆棘を、あの野ばらのポリングブロックを植ゑ附けたのてのは、現世の恥辱であ

るのみならず、後世までも史上に恥を貽す所行ぢやなかつたですか？ 況んや恥面アかいてまで奉體した其男の爲に馬鹿にされて、抛り出されてしまつたなんてのは、ますます恥の上塗ぢやありませんか？ いや、まだ晩かアない。今なら尙、失した名譽を取返し、世の信用を恢復して、あの傲慢な王の侮辱嘲弄に復讐をなさることが出来んこともない。彼奴め、今は晝も夜も魂膽を凝してゐる、貴下がたに借りた一切の負債をどうかして一舉に、残酷な死刑で以て、濟してしまはうとしてゐる。だから、わたしは言ふのだ……

ウーセ

まゝ、分つた、お黙りなさい。今わたしが秘密の一卷を繙いて見せるから、お前さんの其不平滿々の敏ッこい頭で、其重大な、危険な内容を讀んで御覽。それは、譬へば、渦を巻いて轟々と鳴渡つてゐる急流の上を、ぐらつく槍一本を橋にして、渡らうとするやうな冒險なのだ。

熱拍 ぢや、墜落ちりやアおだぶつだ！ 沈むか、浮くかだ。（獨語的に）東から西へ、「危険」を横倒しにしておいて、「名譽」を暗雲に北から南へと駆け抜けさせて、格闘させる。あゝ、同じ狩出すくらゐなら、兎よりも獅子のはうが血が躍る。

熱拍車は冒險を想像して瞑想に耽つてゐる。

ノオサ （ウーセスターに）何か大手柄を想像して、逆上せて、有頂天になつてゐる。

熱拍 （尙獨語的に）なアに、實際のこつた、只その失した名譽を元通りに復せしめるといふだけの事なら何でもないので。天へ飛び上つて行つて、あの蒼白い面のお月の手から清淨の名譽を引奪つて來るのも容易なこつた。或は測量鉛も達かない海のどん底まで潜つて行つて、沈んでゐる名譽を其前髪を掴んで引上げて來るのも何でもないので。が、たまらないのは、此みじめな、生ぬるい御奉公ぶりだ！

ウーセ （ノオサンバランドに）さやう、彼れは例の取りとめのない、いろんな空想に耽つてるのです。……（熱拍車に）おい、甥御、ちつと聽いてくれないか、話を？

熱拍 （心附いて）あ、失禮しました。

ウーセ 外ぢやアない、お前さんの捕虜の、あの蘇國の貴族連のことだが……

熱拍 （性急に）ありや一人残らずわたしの許に置きます。誓言！ 一人だつて奴なんかに渡すものか！ いや、決して。苟も蘇國人にして、靈魂を墮獄させまいと望んでゐる以上、決して引渡しません。わたしは誓つて手許に置きます。

ウーセ 忽ち横へ外れてしまつて、わたしの言ふ事を聽いてくれないから困る。

熱拍 捕虜は手元におきなざるが可い。  
然、おきますよ。分り切つたことだ。奴め、モオチマーの身受はしない、モオチマーの事は口にする事はならん、と言やアがつた。關ふもんか、奴

が寝てる處へ往つて、其耳元で、大聲で「モオチマー！」と怒鳴つてくれる。  
さうだ、掠鳥めに只モオチマー〜と鳴くことだけを教へて、それを奴の  
許へ送つてやつて、それを聞いたびに怒りつゝけてゐなけりやアならんや  
うにしてくれる。

ウーセ

(止めて)おい〜、まア聞きなさいよ、たつた一言でいゝから。

熱拍

(尙半夢中で)誓つて、何もかも擲ツちまつて、只もうあのポリングブロックめ  
を痛め附けるのを仕事にしてくれる。それからあのウエールズの公爵め、  
あの横柄な生利野郎、現在の親父さへ可愛がつてゐないで、どうか變死で  
もすれば可いと願つてゐるといふを思はなけりや、夙に麥酒に毒を仕込  
んで、其一盃で盛殺してくれたかつたんだ。

ウーセ

(呆れて)ぢや、さよなら。もつと聽いてくれさうな時に話すことにしよう。

ノオサ

(熱拍車に)これ〜何といふ無法な、馬鹿な疝癪三昧だ！ 女子供ぢやある

まいし、自分の勝手ばかり喋舌り散らして、更に他の舌に耳を貸さないと  
いふのは！

熱拍

それだつて、わたしアあの老獺なポリングブロックめが物を言ふのを聞く  
と、まるで笞で撲たれて、棒で叩きのめされて、荆棘でひツかゝれて、おま  
けに蟻に咬立てられるやうな氣持になるんです。リチャード王の時分に  
…ありや何處でしたッけねえり…畜生、何とか言つたッけ彼處は？…  
あ、グロースターシャーだ。あそこに、あの優柔のヨオク公爵が住んでゐ  
た…あそこでだ、わたしが初めてあのにや〜笑ひの名人に、あのポリ  
ングブロックめに拜謁に及んだのは…畜生！…貴下と奴とが丁度レ  
ヴンスバーグから歸つて來た時だ。

ノオサ

パークリー城内で初めて會つたのだ。

熱拍

さうです…あの時、あの阿諂の獵犬めが、ま、何て甘つたるい追従の有

りッたけを、わたしに對つて竝べやがッたらう！ ねえ、「自分の此幼稚な好運が果して恙なく生長つ時機ともなれば」とか、「我ハリー・バーシー君」とか、「我義侠なる親戚の君」とか……あゝ、悪魔よ、あゝ偽善的奸賊を取殺してくれ！ どっこい、そんなことを言つちやア神様にすまなかつた！……（ウーセスターに）叔父さん、さ、お話を聴きませう。もう止めました。いゝや、まだ残つてるなら、御存分に。わたしは待つてますから。もう全く済みました。

ウーセ

ウーセ

ちや、改めていひます、例の捕虜の件だが、あれは償金に係らず、すぐ引渡しておしまひなさい。それから蘇國で兵を募るには、是非あのドーグラスの息子（ファイフ伯モオデーグ）を無二の仲介者になさるが可い。それは、後から書いて送る種々の理由があつて、先方に異議のあらう筈はない。……貴下は（とノオサンブランドに）息子さんが右の如く蘇國で事を運んでゐる間

に、竊かにあの名望の高い、例の大監督の腹心に分け入つて……

熱拍

ヨオクの大監督でせう？

ウーセ

さうだ。あの仁は舍弟スクローブ卿がプリストルで殺されたのを酷く含んでゐる。これはでもあらう程度の臆測ではない、十二分に咀嚼され、計畫され、確定されて、只機會の面の見えるのを俟つてゐるといふ程度にまで運んでゐるものとしていふのだ。

熱拍

あ、匂つて來た。キツと巧く行きさうです。

ノオサ

おのしは、兎角、まだ獲物が飛出しもせないうちから、犬を追放すから不可よ。

熱拍

だつて、こりや大丈夫、素敵滅法界な計畫です。……ちや蘇國の兵と其ヨオクの兵とが……モオチマーのと合體するんですね、え？

ウーセ

あゝ、さうだ。

熱拍

そいつア非常に巧い魂膽ですなア。

ウーセ

つまり事を擧げるのを急ぐのは止むを得ないからだ、お互ひの首を失すまいとするに外ならん。と言ふのは、どんなに吾々が用心して奉公して見たところで、王は吾々に負ふ所の多いために、それをすっかり濟してしまはんうちは、きつと不満でゐるだらうとばかり邪推してゐる。で、近來に至つては、吾々を疎んじてゐるのが、明かに其眼色に見えてゐる。

熱拍

さうですく。今に其仕返しをしてくれらア。

ウーセ

甥御、ぢや、さよなら。…今はこれだけにしておいて、悉しい方針は、あとから書面で知らせることにする。時機が熟すれば、(それはもう直のことが)、わたしは竊とグレンダワーとモオチマーとを訪ねる積りだ。あそこで、ドーグラスの兵も、わたしらのも、豫て然ういふ風に手筈しておかうから、好い具合に一しよになつて、さうして、其強大な力で吾黨の運命を支

ノオサ

撐することにしよう、今は吾黨の運命が、まだ甚だあやふやだが。では(とウーセスターに)御機嫌よう。きつと成功するよ。

熱拍

叔父さん、さよなら。あゝ、早く時が経てば好いになつ、野山に鳴り渡る劍の音と唸き聲とで以て、あの野獸めを狩出してくれない!

入る。

\* \* \* \* \*

第二幕

第一場 ロチエスター。旅館の内庭。

擔夫甲が手に挑灯を持って出る。

甲 おうい！……これが明け方の四時でなけりや縊り殺してくれ！ 北斗七星が新規の煙突の上まで来てら、それだのに尙馬の荷が出来ねえ。……やい、馬丁！

馬丁 (奥にて)ちきだ、ちきだ。

甲 後生だ、トム・カット(荷馬の名)の鞍叩いて、ちつとべい毛屑填めてやつてくるんろ。奴め、可哀さうに、おッそろしく肩骨痛めてるだからね。

乙 他の擔夫乙出る。

乙 豌豆だつて、豆だつて、微だらけになつちまつてら、どッ畜生よろしくだ。これぢやアまるで蠅の卵を製造してるやうなもんだ。ロビン馬丁が死んでからでものア、此家ア顛覆へちまつたア。

甲 可愛さうな男よなア！ 燕麥が騰貴つてからでものア、悄氣ちまつた。死んだのはそれが原因だアな。

乙 なア、ロンドン海道で、此家ほどおッそろしく蚤のゐるところア有りやしねえぜ。俺まるで泥鯉のやうに刺られちまつたい。

甲 泥鯉のやうに！ ほんのこつた、どこの、どんな偉い王さまだつて、おれが、一番鶏から今までに刺られた程にやア、刺られることア出来やしねえや。

乙 つまり、澆瓶をよこしておきやアがらねえからよ。つい煙筒へやらかす、だから其小便から蚤が生くんだ、泥鯉から生くやうになア。

甲 (奥に向つて) やい、馬丁! どうしたんだい、悪黨! え、おい、どうしたてんだい!

乙 俺、鹽豚と生姜をチェリング・クロッスまで持つてかんけりやなんねえ。畜生!

甲 あの大籃の中の七面鳥はもう大概くたばりかゝつてるんだ。...

乙 おい、馬丁! 何してやがるんだい! 手前の頭にやア目玉は無えのか? 耳は無えのか? 手前のやうな奴の頭、叩きわるのは酒くらふのもおんなじの善い事でないけりやア俺悪黨だに。...

甲 早くうしやアがれてば! お宗旨は無えのか、此野郎?

フオールスタッフの仲間の無頼漢の一人ガッツヒル出る。

ガッツ 擔夫さん、お早う。何時だね?

甲 (わざと悔けて) 二時頃だんべいか。

ガッツ 後生だ、挑灯を貸してくんな、厩にゐる俺の闇馬を見に行くんだから。

甲 おつと、待つて下さい。二つ挑灯が要ることになりさうだからね。

ガッツ (乙に) 後生だ、お前のを貸してくんな。

乙 はい、一昨日お出でなさいだ。...ヘッ! お前のを貸してくんなとおつしやる。...それよりも前に、お前さんの絞罪になるのを見べいよ。

ガッツ ねえ、擔夫さん、何時ごろロンドンへ着くね?

乙 さ、手燭持つて寢床へ行く位の間は、まだ大丈夫あるべいよ。...さ、マッグス、旦那衆を起さつせいよ、荷物がどっさりだから、おほぜい揃つて行く氣だらう。

甲 乙入る。

ガッツ (奥に向つて) おい、番頭!



番頭

(奥にて)へい、こゝに、と巾着切が返辭をしたと言つても、「へい、こゝに、と番頭が答へた」と言つても、ま、おつかつた。何故ッて、お前と巾着切との差ひは、仕組むのと仕上げるのとの差ひに過ぎないからね。お前は仕組むんだ。

獨りごとを言ひく番頭出る。

番頭

お早うござす、ガッツさん。昨日お話した通りでござんすよ。ケントの方から来たお百姓さんは、金貨で二千兩も持つて来てまさ。お同行の一人へ、昨夜夜食の時に然う話してたのを聞きましたよ。その一人てのは、何でも大藏省のお役人さんでね、これも澤山持つてまさ。…何ほ程だかは知れませんがね。もう皆な起きて、卯兼酪で朝食をと命じてます。もうすぐ發つでせう。

ガッツ

大將、やつらアキツと山のお上人のお弟子たち(山賊)に邂逅るぜ。若しこの

番

豫言が間違つたら、此首をお前に遣らア。

いゝえ、そりや御辭退しますよ。ま、それは、保存になすつて、絞罪係へお渡しなさい。何故ッてね、お前さんは、其山のお上人さまを御信仰だてこととは分り切つてゐますからね。不正直なお人柄相當にね。

ガッツ

絞罪係が如何したつて? 萬一俺が首を絞められるやうだと、絞罪臺に肥満漢が一對出来ることにならア。何故ッて、おれが絞められるやうだと、あの士爵ジョンの爺さんもやられる譯だが、ありや決して瘦ッぼちぢやないからね。へッ! お前は知らねえけれど、仲間中にや不思議な偉い大將がゐるからなア、ほんのお慰みに此職業を遊ばさうてのがあるんだ、で若し事がむづかしくなつた日にやお身分に係るから、そこは何もかも圓く治めちまはうてんだ。おらちの仲間には只の無頼漢ぢやアねえのだ、長い棒で以てたつた六ペンニーそこいらをぶッ奪つたり、髭を紫色にして、狂水をあほ

つたりするやうな手合ぢやアねえんだ。皆なお歴々の、お樂々の、お殿さまの、お物持さまなのだ。いざとなりや、ずつと治まっちまふことも出来るお方々だ。喋舌くるよりも先に撲り附け、飲むよりも先に喋舌くり、祈るよりも先に飲むといふお方々だ。どっこい、そりや嘘だつた。奴ら始終お祈りをしてらア、國內が繁昌しますやうにといつてね。いや、祈るんぢやないや、強請るんだ、少しでも景氣が好さうだと、國中を乗廻して、一々其頭を奪つて歩くんだ。

番

國中の頭を？ さう撲られた時分にや、なんぼ大きな國の頭だつて脹れさうなもんですね。

ガッヅ

あゝ、憤激れるよ。けれども、そこはお上から膏藥が下つてるから大丈夫だ。俺たちは、城の中で仕事をするんだ。羊齒の種(隱形劑)を持つてるから、目附りッこはねえ。

番

いや、目附からないのは夜のお底でせう、羊齒のお庇よりも。

ガッヅ

おい、握手しよう。お前に、必ず仕入れ物を分けてやるよ、嘘はいはない、おら正直者だ。

番

さア、いつそのこと、盗賊さんの貴下が下さるんだから、平氣で頂戴しますと言ッときませうよ。

ガッヅ

人をつけ！「盗」だけ止してくれ、せめて「坊さん」ぐらゐで忍耐してくれ。……さ、馬丁に然ういつて馬を引出させてくんない。さいなら、鈍洲。

入る。

第二場 ガッツヒルが岡附近の公道。

王子 ヘンリーとポインズと出る。

ポインズ さ、さ、早くお隠れなさい。わッしがフォールスタッフの馬を隠しちまつた

んで、奴め、ゴム引の大鷲絨のやうに憤々してまき。

王子 かくれろく。

二人樹蔭へかくれる。フォールスタッフぶつくさ言ひながら出る。

フォールズ (腹立聲で) ポインズ！……ポインズの奴め、首イ絞められてしまやアがれ！

……ポインズ！

王子 (何氣なげに樹蔭から出て来て) やかましいぢやないか、此土手ッ腹が！ 何を怒

鳴つてゐるんだよ！

フォールズ お、ハル公！ ポインズは？ え？

王子 岡の頂邊の方へ歩いてつたよ。往つて捜して来よう。

王子又木かげへ入る。

フォールズ あんな盗賊野郎の仲間なんかになつて追刺をするやうだと、おらア地獄へ

墮ちるぞ！ 悪黨め、おれの馬を何處か分らん處へ引張つてつて、繋いでし

まやアがつた。此上、四尺と歩かして見る、おれは息が切れッちまはア……

さうだ、まだきツと樂に死ねる、彼奴を叩き殺した罪で首絞められさへしな

けりや。此二十二年でも、絶交しようかと思つてたんだが、つい會ふと、

奴の口前にごまかされッちまふ。悪黨め、俺に惚れ薬を飲ませやがつたの

で無けりやア、おれ首絞められてもかまはねえぞ。きツと然うだ。おれに

惚れ薬を飲ませやがつたんだ……ポインズ！……ハル公！……二人とも

時疫に取ッつかれやアがれ！……バードルフ！……ピートー！……あ、腹

空になつて死にさうだ、一足と踏み出して、追剝なんかする前に。眞人間になつて、あいつらの手を切るのが、酒飲むのと同格の善い事でねえやうなら、俺は物を食ふ人間の中の最大悪黨だ。……あゝ、かういふ山坂路を四間と歩くの、おれに取つちやア三十里にも當らア。それを酷い奴ら、よく知つてやがるのだ。畜生め、うぬ、どろばう同士の癖に、義を守りやアがらねえ!

此時奥にて口笛聞える。同じく口笛を鳴らして

フヒュー!……時疫にでも罹りやアがれ、どいつもこいつも! やい、馬をくれ、馬を。悪黨、早く馬持つて来て、首イ絞められてしまやアがれ!

王子又木かげから出る。

王子 やかましいよ、布袋肚! そこへ突伏して、地びたへ耳をつけて聽いて見な、もう旅人の來るのが聞えさうなものだ。

フォル おれを起す杖でもあるのかい、ぶッ倒れちまつたら如何するよ? うんに

や、おれはもう一足だつて此肉體を持つちやいかんぞ、お前のお父さんの金庫の中の有りつたけの金貨をくれると言つたつて。……どうしておれを如是に間拔扱ひにするんだ?

王子 馬抜け扱ひ? だアれも馬抜け扱ひなんかにしやしないよ。お前が自分で以て、勝手に馬に抜け出されてしまつたんぢやないか?

フォル (調子を變へて) 後生ですよ、ハル親王殿下、おれの馬を引張つて來て下さいよ、ねえ、もし、親王殿下。

王子 こん畜生! おれをお前の馬丁扱ひにするのか?

フォル えいッ、お前なんかア、その靴下締で、その親王殿下紐で以て、首縊つてくたばちまつたはうが可いんだ。記えてろ、おれが捕まりや、何もかも喋舌ちまふから。今に見ろ、お前の事を、何もかも小唄に作らせて、卑な節で

歌うたひ歩あるかせてくれなかつたら、おれに毒どくを注いれた酒さけを飲のませてくれ！……  
悪いた戯づらも斯かう悪わるく蒿かうじちや、おら大たい嫌きらひだ。

ガッツヒルとバードルフとが假かり装まして先に立たち、ビートーをつれて  
出でる。と、他方たからボインスも出でる。

ガッツ (だしぬけに大聲で) やい、待まちてッ！

フォル (びつくりして、べたりとなつて) 待まちつよ、體からだが言いふことを聞きかないから。

ボイン (フォールスタッフをなだめて) あゝ、ありや此方こち共ともの指さし圖ず役やくだよ。聲こゑで解わかる。……

……おい、バードルフ、どうだね？

バード 覆つら面かくしを掛かけるんだ、覆つら面かくしを。みんなが掛かけるんだ。今いま王わうさんの御用金ごようきんが

澤山たくさん岡おかの方ほうからやつて來くるとこだ。王わうさんの金庫かねくらへ納納る金かねだ。

フォル うそを吐つけ、悪あく黨たう。王わうさんの酒店さかみせへ納納る金かねだ。

ガッツ あれだけ、入はいりやアみんな揃そろつて浮うかび上あるせ。

フォル 絞罪くびしめたい臺たいの上うへへか？

王子 さ、お前まへたち四よつ人は、あの狭せまい路みちンとこで遮斷くいとめな。ネッドとおれはあの  
下したンとこを歩あるいてゐよう。もしか奴やつらが逃にげ抜ぬけるやうだつたら、おれ  
たちが引受ひきうける。

ビート 何人なんにんぐらゐ居あるかねえ？

ガッツ 八人はんにんか十人じんにんだ。

フォル (ぎよつとして) ちや、あべこべに剝はがれやしなないかい？

王子 おや、士爵さしやくジョン布袋肚はてつはらは臆病者おくびやうもんなのか？

フォル さ、同じく士爵さしやくジョンでも、お前まへのお祖父おぢいさんの士爵さしやくジョン瘦人ガントさんのやう  
に瘦やせッぼちちやアないが、臆病者おくびやうもんぢやアないね。

王子 其判決そのはんけつは、ま、試験しけんの上うへとしよう。

ボイン (フォールスタッフに) ジャックさん、お前まへの馬うまは、あの生垣いけがきの後うしろに居あるよ。入用いりよう

なら、往つて連れといで。 さよなら、ぬかりなさんなよ。

王子先に立ち、ポインスを連れて行きかける。

フォル

かうなると、奴を撲り附ける譯にやアいかん、首を絞めるぞといはれたつて。

王子

(ポインスに小聲で) ネット、假装の道具は何處にある？

ポイン

すぐそこにあります。こつちへ竊といらつしやいまし。

二人入る。

フォル

さ、みんな可いかい？ どうぞ仕合せがようございますやうにだ！ みんなぬかるな。

旅人大勢話しながら出る。

甲旅人

ねえ、あなた。 馬はみんな小僧が岡下へ引張つていつてくれますから、お互ひに些と歩くことにして脛を休めませうよ。

フォールスタッフらの賊群づかくと前へ出て

賊群

待てッ！

旅人らうろたへ騒いで、地べたに平伏して

旅人ら

イエスさま、どうぞお助け下さい！

フォル

撲て。 叩き倒せ。 野郎共の喉を打切ッちまへ。 あゝ！ うぬ、けがら

はしい毛蟲野郎の鹽豚喰ひ野郎め！ 若々してやがるのが氣にくはねえ。

叩き倒せ。 面の皮ア引剝いでやれ。

旅人ら

あゝ、こりやもう身代限りぢや！ もう何もかも駄目になつてしまつた。

フォル

おのれ、布袋肚の悪黨めら！ なに、身代限りだ？ 虚を吐け、肥ッちやう

の卑吝漢め！ 有りッたけの財産を持つて來てゐやがりや可いのに！

えゝ、うせう、うしやアがれ、鹽豚め！ 何だど？ 若い者こそ生きんけり

やならんのだ。 なに、大審査官を勤めた者だど？ へッ、審査は此方共が

してくれらア。

旅人らの懐中物を奪ひ、縛つておいて入る。  
王子とポインズと他方より出る。

王子

逆まなことだ、良民が悪黨に縛られた。……(ポインズに) さ、これから二人であの悪黨共の奪つた物を奪つて、愉快にロンドンへ歸つて行かう。向ふ一週間の笑ひ話の種だ、一月は笑ひつゞけられる。好い滑稽種だ。

ポイン

お隠れなさい。奴らが來ました。

フォールスタッフら又出る。

フォール

さ、みんなで分取にして、夜の明けんうちに馬に乗っちゃまはう。王子とポインズめは臆病者の骨頂だ、で無きや、世の中に公平な評てものは有りやしねえ。ポインズの奴アだけの勇氣も有りやしねえ。

一同寄りこぞつて分捕品を分配しようとする。

王子とポインズが覆面して抜劍し、だしぬけに躍り出る。

王子

金を渡せ!

ポイン

悪黨めら!

一同狼狽する。フォールスタッフは、ほんの二打ち三打ち抵抗して見て逃げる。皆々、分捕品を残して於て、逃げて入る。

王子

難なく手に入つた。さ、愉快に乗り出さうぜ。どろばう共はちりぐばらぐになつちまつた。怖がつてるから、一しよになり得やしない。てんぐに相手の者を警察官だと思ひちがへてゐやがる。ネッドや、さ、往かう。フォールスタッフめ、汗をだらだらとぼたくと落して、逃げながら瘦ッ地へ肥料をしてやがる。をかしくって、で然さや可哀さうだと思ふのだけれど。

ポイン

どうです、奴のあの吠方てのは! 入る。

第三場 ウアーウォース城。

熱拍車(ハーリー・パーシー)只ひとりて、マーチ伯ジョールジ・ダンパーから送つてよこした書状を讀みつゝ出る。(此マーチ伯は蘇國のマーチ伯で、同じマーチ伯と名宣つてゐる英國のモオチマーとは別人である)。ウアーウォース城はパーシー家代々の居城である。

熱拍

「然れども自分一個としては、御一門に對する敬愛上直にも參會せまほしく存せざるにもあらず。」存せざるにもあらず！ ちや、何故存じようとしないのだ？ 我一門に對する敬愛上だ？ 之によると、奴ア此方のよりも自分が家の納屋の方を大切に思つてやがるのだ。……もう少し讀んで見よう。「貴下の計畫は危険なり」。そりや知れた事だ。然う言や、風を引

くのも危険だ。眠るのも、飲むのも。だが、おい、拔作さん、此危険といふ荆棘から、安全といふ花が摘取られる事があるよ。「貴下の計畫は危険なり、貴下の列擧せられたる同志は信賴すべからず、時機其者も宜しきに適はず、而して企圖全體が、其對抗の大いなるに比して、餘りに輕きに失す」。足下は然う斷言するかい？ 果して？ 敢て再び言ふよ、足下は淺薄な、臆病な土百姓だ、さうして虚言者だ。ま、何といふ意氣地なした！ 今度の企圖は、誓つて古今の妙計だ。身方は悉く忠誠無二の手合だ。案も好し、身方も好し、希望も十二分だ。傑れた計畫だ、最上等の身方だ。何て冷淡な臆病野郎だ此奴は！ 現に、ヨオク卿が既に此計畫なり、大體の方針なりに賛成してゐるぢやないか？ 誓言？ 今こゝにゐるやがりやア、奴の嬢の扇子かなんかで奴の頭を叩きのめしてくれるのに。俺の爺がゐるし、伯父がゐるし、俺がゐるぢやないか？ それにエドマンド・モオチ



マーがある、ヨオク卿がある、オーエン・グレンダワーがあるぢやないか？  
 まだ其他にドーグラス一家がある。來月の九日には、彼等が皆な兵を率  
 ゐて會合すると書面で言つて來てるぢやないか？ 或者はもう既に出發  
 してるぢやないか？ 何て邪宗信者だ此奴は？ 不信者め！ や！ 待  
 てよ、或は、臆病未練の餘りに、奴め王の許へ往つて、我黨の陰謀を傾瀉け  
 るかも知れない。お、此體を二つに分けて、奴を撲り附けてくれない。  
 こんな水っぽい奴を立派な獻立の一品に加へようなんて思つたのが大癡呆  
 だ！ 畜生！ 王に告げるなら告げやアがれ！ こっちは覺悟の前だ。  
 いよ／＼出發しよう。

パーシー夫人出る。

夫人

どうしたのだい、ケート！ もう二時間経つと、別れなくぢやならんよ。  
 お、あなた、何故あなたは、そんな風に、いつも／＼、お一人きりでお出

で遊ばすの？ わたくしに、どういふ不埒がございまして、此二週間とい  
 ふもの、わたくしをお寢間からお遠ざけになつたのです？ あなた、何故  
 物も食らず、御安眠もなさらず、不愉快さうにばかりなすつていらつしや  
 るのです？ なぜ下ばかり見ていらつして、お一人でいらつしやりなが  
 ら、時々悸となさるのは如何いふわけですか？ なぜお顔に活々した血の色  
 がなくなつたのですか？ いやアな、陰氣な御心配事ばかりにお氣を奪は  
 れ遊ばして、其理由をおたづねする大切な權利をさへ妻たるわたくしに與  
 へて下さいませんか、如何いふわけですか？ うた、寢を遊ばした時、お  
 傍にゐましたが、いろ／＼寢語をおつしやつた、それが皆な怖ろしい戦争  
 のお話でしたの。躍り跳るお馬に號令を掛けたり、「進め！ 勇敢に！」な  
 んかと呼びつたり遊ばすの。それから突貫だの、退却だの、斬壕だの、天  
 幕だの、木柵だの、外郭だの、胸壁だの、バシリスク砲だの、カノン砲だの、

カルゼリン砲だの、捕虜の償金だの、殺された兵卒だのとおつしやいましたの。みんな激しい戦争の事柄ばかりでした。何でも、軍のことばかり思つていらつしやるので、夢にもそれを御覽なさるのでせう。お額の上に、冷汗の玉が、攪廻したばかりの流れの上の泡のやうになつてゐました。それからお顔が急に變つて見えました、何か俄に重大な命令か何かを



受けて、はッと思つて息を止めた時のやうな風に。お、あれらは何の前兆でせう？ 何か容易ならんことを考へていらつしやるのでせう？ それを知らせて下さらないやうなら、わたくしを可愛がつて下さらないのです。

此時家來一人出る。

熱 (家來を見て) おい、何だ？ ……ギリヤムスはもう出掛けたか、書簡束を持つて？

家來 へい、一時間も前に出掛けました。

熱 バトラトは町奉行の許から馬を持つて来たか？

家 へい、一疋だけは只今持参いたしました。

熱 どんな馬だ？ 栗毛の、耳を切つた奴か、え？

家 それでございます。

熱 その栗毛を俺の乗料にしよう。よし、直に乘らう。……お、希望！……  
……パトラーに、奴を庭内まで牽出しとけと言ひつける。

家來入る。

夫人 ねえ、あなた、もし。

熱 え、何ですって？

夫人 ま、何があなたを然う外方へ連れて行くのです？

熱 外方へ？ 馬が連れて行くのだよ。

夫人 あら、ま、人を！ 鼯鼠だつて、あなたの今のお心持のやうに、然う氣まぐ

れぢやありませんわ。ほんたうに、仔細をおつしやつて下さい、ねえ、ハ

ーリー、どうぞ。もしや兄のモオチマーが相續權の主張を企て、あなた

に其後援を願つてよこしたのぢやありませんか？ けれども萬一お出か

けになるやうだと……

熱 (ちやかして)あそこまで歩いて出かけちや、草臥れッちまふよ。

夫人 まッさ、よう、はぐらかさないで、正直に、ほんたうに返辭をして下さい。

ハーリー、わたし、あなたの指をつねりますよ、ほんとに、若し何もかも話

して下さらなけりや。

熱 えいッ、うるさい！ あつちへ！ うるさいてば！ お前を可愛がる！

可愛がつちやゐないよ。ケート、お前の事なんか思つちやゐないよ。偶

人を玩具にしたり、唇で試合をしたりしてゐる時節ぢやないんだ。鼻ッ

柱を血だらけにしたり、脳天を叩きわられたりしたのが、却つて立派に通

用する世の中だ。……(奥に向つて)さ、早く馬を持つて来い！……え、ケート、

何ですって？ 何か用かい？

夫人 ぢや、わたしを可愛がつちやゐないのですね？ ほんとに？ (涙聲になつて)

ぢや、ようござんす。あなたに可愛がられないと定れば、自分でも可愛が

りません。……可愛がつちや下さらないのですね？ いゝえ、おつしやつて下さい、本氣か、戯言かを。

熱  
まアさ、御覽よ、馬に乗るのを。馬に乗っちゃまやア、誓ふよ、無數にお前を可愛がるて事を。だがね、ケート、此後とても、何處へ往くだの、何故だの、尋問に及ぶのは御免だよ。往かんけりやならん處へは往かんけりやならんよ。だから、つまり、今夜は、その、ケートさん、あなたに別れんけりやならんよ。わたしは貴女を聰明者と信じてゐる、けれどもハリー・パーシーの妻たる以上に聰明ぢやアないんだ。貴女は堅實だよ、けれども女だ。さうして貴女は、どの婦人よりも以上に、祕密を守り得る。と言ふのは、全然知らないことは他言のしやうがないからね。そこまでは、ケートさん、わたし貴女を信じてるよ。  
夫人  
え、そこまでは？

熱  
それ以上は、只の一寸もだ。だがねえ、お聞きなさい、わたしが往く處へ、つまり、貴女も往くことになる。わたしは今日出發する、貴女は明日だ。それで可いだらう、ケート？

夫人  
(歎息して)あゝ爲方がない。  
入る。

第四場 酒亭、猪頭軒。

王子とポインズと出る。

王子  
ネッド、おい、頼む、その脂肪臭い室から出て来て、ちつと笑ひ話の手傳ひを

してくれ。

ポイン

ハルさん、どこにゐたんだね？

王子

大樽が六七十、鈍漢が三四頭といふ處にゐた。バス調子の下等なものも、此以下は無からうてのを引掻き鳴らして見たよ。おれはあの給仕人共と兄弟分の約束までして、トムとか、デップとか、フランシスとか、耶蘇名で呼び合ふ仲にまでなつたのよ。で、奴らはもう誓言を爲始めてゐる。やれ、あんたは王世子さまであらうしやるけれども、實際お謙遜で、おそろしくお丁寧さまであらうしやるの、やれ、あの高慢なフォールスタッフとは異つて、磊落坊だの、小氣味の好い若い衆だの、好い小僧子だの……と、實際そんな風呼びやアがつて！……おれが英國王となつた日にやア、それこそイーストチープ中の若い者にや大人氣だなどと言やアがる。奴らは、大酒を飲むとを「鼻の緋染」と呼んでゐる。飲みかけて、くづつかしてると、エハ

ンと咳をして、すぐにやつつけろと催促をする。つまり、おれはたつた十五分ばかりで以て、すっかり卒業した。もうどんな鑄掛屋とでも、奴らの符牒を使つて、一生飲み競が出来るといふもんだ。おい、ネッド、惜しいことをしたよ、その一戦にお前が参加する名譽を得なかつたのは。其代り、ネッド、さ、些少だが此砂糖を與らうよ、おのしの名前に甘味を附けるために。こりや今あの見習給仕が俺の手へ抛り込んだんだ。彼奴の喋舌る英語は数が定つてるから可笑しいなア。「八シリングと六ペンズ」、「よういらつしやい」、それから黄色な聲で「只今、只今！ 半月室で父なし兒（酒の名）を三合だけですぜ。ようござすか？」とか何とか……それはさうと、ネッドや、フォールスタッフが来るまでのところが退屈だから、斯うしよう、おのし、何處かそこいらの小座敷に立つてゐなよ。おれはあの見習小僧を呼んで、何のために、おれに砂糖をくれたかを問かう。その間おのしは連続的に

「フランシス〜」と呼ぶんだ。すると、奴め、おれに對つて「只今、只今！」とばかり言ふことになるだらう。……さ、早く引退んで。おれが實例を見せるから。

ボインス 入る。すぐ奥で

ボイン フランシス！

王子 其呼吸、其呼吸！

ボイン フランシス！

若い給仕人フランシス 出る。

フラン へい、只今、只今！……おい、ラルフ、柘榴の室を見てくんな。

王子 フランシス、おい、一寸。

フラン へいッ

王子 フランシス、汝は、もう何年奉公してるリ！

フラン 實際、五年になります、へい、ですから……

ボイン (奥にて)フランシス！

フラン へい、只今、只今！

王子 五年！ 錫壘をチンカラいさせるだけに五年の年季は長いなう。だが、

おい、フランシス、汝は其年季證文なんか裏切ッちまつて、尻に帆をかけて、さらんぱんをきめ込まうて勇氣は無いのかいッ

フラン へい、そりやもう貴下、有りッたけのお聖書さま掛けて、随分その何でございます……

ボイン (奥にて)フランシス！

フラン へい、只今！

王子 フランシス、汝は幾歳だッ

フラン かうつと……次のマイケイルマス(九月二十九日)には、丁度……

ボイン (奥にて) フランシス!

フラン へい、只今……御前、どうか一寸お待ちなすつて。

王子 いゝや、ま、一寸待てよ、フランシス。汝が與れたあの砂糖は……ありぬ

一錢分ぐらゐあつたらう?

フラン せめて四錢分もあげときやようございましたに!

王子 あの代として一千ポンドも與らうよ。いつでも欲しい時に然う言へ、與るから。

ボイン (奥にて) フランシス!

フラン 只今、只今!

王子 (わざと間違へた風をして) え、只今だ? 今は與らないよ。明日與るよ。で

無けりや火曜日。な、フランシス、つまり、何時でも汝が欲しいといふ時に。だが、なう、フランシス!

フラン へい?

王子 ちや、汝はいよく引剝いでしまはうてのかり? あの柔革胴衣の、水晶鈕

の、五分刈頭の、瑪瑙指輪の、鼠股引の、毛絲紐の、辯口の、好い、西班牙囊の……

フラン (呆れて) ま、御前、そりや何のことでございます?

王子 ちや、何か、赤の父なし兒(酒の名)の外に酒はないのか? フランシス、おい、氣を附けな、其白布子が汚れるぜ。な、バーバリーらや、そんなに高

かゝないぜ。

フラン へ、何でございますッて?

ボイン (奥にて) フランシス!

王子 おい、馬鹿、早く行け! あんなに呼んでるぢやないか?

王子とボインとが代るく、チャンポンに呼び立てるので、

フランシスは行きかけたり戻つたり、うろくして、いろくを  
かしみ。

酒場の亭主が何事かと思つたらしく出て来て、フランシスに

高主

何だ、突立つて呼ばれるのを聞いている奴があるか？ 奥の客人に注意しね

えか、とんちきり！ (フランシス入る。亭主は王子に) 御前さま、士爵ジョンさんが、

他に五六人御一しよに、店口へござらっしゃりました。お入れ申しませう

か？

王子

ま、少時そのまゝにしといてね、それから、ゆつくり扉を開けな。(亭主入る)。

ポインズ！

ポイン

へい、只今、只今！

とフランシスの口真似をしつゝ、出る。

王子

おい、フォールスタップが他の盗賊共と一しよにやつて来たよ。戯けよう

か？

ポイン

蟋蟀のやうにおやんなさいよ。それはさうと、あの給仕人の奴をあんな

に玩弄物にしたのは、何故かね？ 何の爲になるのだね？

王子

なアに、只その、あらゆる氣分を味はつて見ようていのだ、アダム爺さんの

太古から、つい此夜中の十二時といふ嫩弱の現在までに、成立ち得た限り

のあらゆる氣分をね。……

フランシス又出る。

何時だい、フランシス？

フラン

へい、只今、只今！ (といひすて、入る)。

王子

覚え込んだ語の数が鸚鵡以下と来てゐる、而もあれで女の生んだ子なん

だ！ 奴の役廻りは階子段を登つたり降つたりだ。一箇幾ら、一箇幾ら

の勘定より外に口上はない野郎だ。……(ポインズに)おれは、まだ如何もあの



パーシーの料簡にやなれない、あの北の熱拍車の。あれは、朝食前に、蘇蘭人を六七十人も斬殺して、手を洗つて「あゝ斯う平和つゞきぢや詰らん！ 何か起りやいゝになア」と其妻に言ふと、妻が「おゝ、あなた、ハリーさん、けふは何人お殺しなすつて？」といふ。「おい、栗毛に水を飲ましてくれ」と言ッ放しておいて、それから一時間も経つてから「十四人ぐらゐだらうよ。へッ、ほんの些少だ。」といふ。……おい、フォールスタッフを呼込んでくれ。おれがパーシーの真似をして、さうしてあの肉の塊り野郎に奴の妻のモオチマー夫人の役をさせよう。"Piss" と奴、叫るだらう。おい、呼んでくれ、助骨を、脂肪のお化けを。

フォールスタッフ、ガッツヒル、バードルフ及びビートー出る。フランシス、酒を携へて、つゞいて出る。

ポイン

待つてたよ、ジャック。何處へ往つてたのだ？

フォル

(眼み附けて) 臆病者め、どいつもこいつも疫病にとつつかれて、くたばつてしまやがれ！ 畜生、べらぼうめ、ほんのこつたい！……(フランシスに) やい、小僧、酒を一杯持つて来い。……こんな目に逢ふくらゐなら、股引屋に商賣替をして、補綴仕事をして、足の先までも編下したはうが優だ。臆病者め、どいつもこいつも疫病にとつつかれてしまやがれ！……(フランシスに) やい、野郎、酒一杯くれるッてば！……もう膽ツ玉が種切れになつちまつたのか？

怒鳴りながら酒を飲む。

王子

(ポインスの肩に凭れながら、ポインスに) おのしは太陽が牛酪の皿を接吻するのを見たことがあるかい？ 牛酪め、涙脆いもんだから、すっかり太陽の辯口に嗽されて、でれくになつちまふ。それを見たことがあるなら、あの脂肪のお化けが汗を垂すのを御覽。

フイル 悪黨め、此酒中へも石灰を入れやがつたな。人間て悪辣な、へちやもくれのしやがることに碌なことありやしねえ。それでも尙臆病者よりア石灰の入つてる酒のほうが優だ。へちやもくれの臆病者めが！……ジャックさんよ、お前はお前でやつて行きな、いつ往生するにしろだ。あゝ此世の中に男魂てものが忘れられちまはねえ以上、おれア卵を産ちまつた鮮よろしくだ。今の英國にや、善人で絞罪にならねえでゐる者アたつた三人ぎりだ。其中の一人は肥つて、もう大分いゝ齡だ。あゝ、世直し世直し！ わるい世の中だ。いつそ機織屋にでもなつて、唄歌つて暮しやアよかつた。讚美歌でも何でも好いから。臆病者め、どいつもこいつも疫病に取附かれやがれた！

王子 おい、大囊さん、どうしたい？ 何をぶつくさ言つてるんだ？  
フイル 王子が何だ！ お前のやうな奴ア、木刀で以て、家來も何もかも一しよくた

王子 雁鴨を追拂ふやうに、此王國から叩き出してくれねえやうちやア、おれは男ぢやねえんだ。おのしなんかを王世子さまが聞いて呆れらア！  
フイル おやく、やくざ者の四斗樽男が、どうしたといふのだ？  
王子 臆病者でねえかよ？ 返辭が出来らるなら、して見ろ。……やい、そこにゐるのはポインスだな？

ポイン 誓言！ 此布袋肚め、おれを臆病者だと言やがつたからにや、さ、突殺すから、然う思へ。（劍を抜く）。

フイル （急に起ち上つて、あわて、退りながら）なに、おれが汝を臆病者と言つたと！ さうおれが言ふよりも前に、汝は地獄へ落ちるだらう。どっこい、大丈夫、駈競なら、負けやアしねえぞ。（と王子の背後へ逃げ込みながら、王子に）成程、お前の後姿は好いや、猫脊ぢやないや、これぢや尻から見られても平氣な筈だ。（強くなつて）あんなことをして、あれで後援といへるか！ あんな後

援が何になる？ 後からでなく、前から向ひ得るやうな奴を伴れて来てくれ。……(フランスに) やい、酒を持って来い。ほんのこつた、まだ今日は只の一杯も飲んぢやアゐねえのだ。

王子 おや、此うそつきが！ まだ、飲んだばかりの口を拭かない位ぢやないか？

フォール おんなじこつたい。(と飲みながら) 臆病者め、うぬ、糞ッ、どいつもこいつもだ！

王子 どうしたといふんだ？ 何故さう威張るんだ？

フォール どうしたッて！ 憚んながら、此お四人さまが、一千ポンドで大金をお奪りになつたんだい、今朝。

王子 其金は何處にある、ジャック？ どこに在るんだより？

フォール どこに在るッて！ 奪られちまつたんだ。たつた四人へ百人も掛つたん

だから爲方がない。

王子 え、百人？

フォール ほんのこつた、おれ、二時間ぶつつけて、奴ら十二人を相手にして鎗を削つたんだ。命拾つたのは全く奇蹟だ。下衣を突通されたのが八たびよ、細袴を四たび。盾なんかも幾度突切られたか知れない。劍の刃が、まるで鉦のやうになつちまつた。……乞ふ、其證を見よだ！ (と腰の劍を引抜いて見せながら) あんな偉い働きをしたのは始めてだ。けれども何にもなりやアしねえや。うぬ、糞ッ！ 臆病者めら！……(バードルフらへ思入して) 奴らに聞いて見るが可い。もしか奴らが有りのまゝを言はねえやうなら、奴らア悪黨だ、悪魔の落胤だ。

王子 おい、みんな、實際どんなだつた？

ガッツ わしらが四人で以て、十二人ばかりの奴らを襲つて……

フオル なアに、大丈夫、十六人はゐた、十六人はゐましたよ。

ガッツ とにかくふん縛ッちまつたんでしたが……

ビート いゝえ、まだふん縛りやアしませんでしたよ。

フオル 悪黨、何をいやがる？ 縛ッちまつたんだい、どいつもこいつも。それが

嘘なら、おれア猶太人だ、エブリューだ。

ガッツ それから獲物を分けようとしてますと、だしぬけに新手の奴が、六人だか、

フオル 七人だか……

ガッツ やつて来て、さうして縛ッといた奴の繩解いて、一しよになつて襲つて來

たんで。

王子 それを悉皆相手にしたのかい？

フオル みんな！ 貴下が悉皆てのは如何いふ意味だか知らんが、おれは慥かに五

十人ばかり相手にしたね、これが嘘だつたら、おれは赤蘿蔔の化物だとい

はれても爲方がない。二十人か三十人、いや、大丈夫、五十人からの者が、

此齡を取つたおれ一人に襲つて來たのでなかつたなら、おれは二本脚の動

物ぢやアねえのだ。

王子 つい一人二人殺しやアしなかつたかい？ そんな事のなかつたやうにと神

様に祈ッときな。

フオル 今更祈つたつて駄目だ。つい二人やッつけてしまった。何でもゴム引布

子を被てやがつた悪黨をたしかに二人やッつけたよ。ねえ、ハル公、ほん

のこつた、若しこれが嘘だつたら、おれの面に唾イ吐かけて、おれを馬ッて

呼んでくれ。なア、お前、おれの得意の防禦構を知つてるだらう……こゝ

に斯うおれが構へて、斯うその劍尖を向けた。すると、ゴム引布子の悪黨

四人が……

王子 え、四人だ？ つい今二人といつたぜ。

フォル 四人だよ……四人ッて言つたんだよ。

ポイン さうだ……四人て言ひましたよ。

フォル その四人の奴めが、ふん揃つて、一生懸命に突掛つて来やがつた。しやにむにおれは、盾で以て其七本の剣尖を丁と受けた。

王子 七本？ だつて、つい今四人と言つたらうり。

フォル ゴム引布子の奴だぜ。

ポイン さうさ、ゴム引布子が四人だよ。

フォル 七人だよ、此欄掛けて。(と十字形の欄を見せて)で無きや俺は悪黨だ。

王子 (ポインに小聲で)おい、うつちやッときなよ。今に必然また殖えるよ。

フォル おい、聴いてるかよ、ハル公ッ！

王子 あ、肅と聴いてるよ、ジャック。

フォル 聴いてな。たしかに聴く價值がある話だ。で、そのゴム引布子の、今言

つたその九人の奴らが……

王子 そら、もう二人殖えた。

フォル つい、その、えてもの、頭が折れたもんだから……

ポイン そいつア痛かつたらう。あは、は、は、は！

フォル たちくと退りはじめやがつた。と、おれが短兵急に追詰め追掛け、忽ちの中に十一人の中の七人をやッつけてしまつた。

王子 おや、驚き入つたねえ！ たつた二人のゴム引布子の中から、とうとう十一人飛び出したね！

フォル ところが、キッと悪魔めがさせたらう、ケンダル縁を一着に及んだ頭株の悪黨が三人、おれの後ろから、だしぬけに切つてかゝつて来た。何しろ、真黒闇だからね、ハル公、お前のその手の先さへ見えねえくらゐだ。

王子 (態度を改めて、冷然と)おのしが拵へさうな嘘話だ。鼻の先の山もよろしく

といふ程の、明々白々の大嘘だ。 やい、土塊頭の、食ひしんぼうの、安本丹の、助平爺の、脂肪樽野郎の……

フォル (わざと驚いて) おや~~~~! 氣が狂つたのか? 事實は事實だらうぢやアねえか?

王子 だつて、どうしてケンダル緑だといふことが分つたい? 暗くって、手の先さへ見えないくらゐだといふのに? さ、どうして見えた? 其返辭が出来るか? さ、返辭をしろ。 ジャック、さ、理由を言へ。

フォル おや、おれを強迫しようてのか? 誓言! 吊墜しなり、石こづめなり、どんな拷問機械に掛けやがつたからって、強迫されて言ふもんかい? 理由を言へ? うぬ、其理由が木苺ほど夥多にあつたつて、強迫なんかされて、誰にだつて言ふもんかい、おれが!

王子 もう止さう、如是いたづらは。 此赤面の、臆病者め、寝たがり野郎の、馬

の脊へし折り野郎の、おっそろしい肉の山の……(と止め度なく並べかける)。

フォル (負けん氣になつて) おのれ、食ふや食はずの、蛇の脱衣よろしくの、羊の舌の干物よろしくの、野牛の陽物の干物よろしくの、鱈の干物よろしくの…… あ、息が切れる、汝に似た物を並べようとする…… 裁縫屋の尺よろしくの、劍の鞘よろしくの、弓の箱よろしくの、押立てた細刀よろしくの……

王子 ま、ちつと休んで、ゆつくり言ひなよ。 さうして、いよく其劣等な比喩が種切れになちまつたら、おれの宣告を聴きな。 そりやたつたこれッきりだ。

ポイン (フォールスタフに) おい、ようく聴いてな。

王子 お前たち四人が四人の者を襲つて、それを縛つておいて、物を奪つたのを、おれたち二人は、ちやアんと見てゐたんだよ。 よく聴きな、事實を言や、お

前たちで、てんで一言もありやしないから。それから、お前たち四人を襲つて、只一聲で以て恠え上らせて、其奪つた物をふん奪つてしまつたんだ。それを持つて來てるから、見せてやつても可い。おい、フォールスタッフ、おのしは随分敏捷に、上手に其臙物庫を引摺つていつたぜ、さうして「助けてくれ！」と叫りつゝ、叫りつゝ逃げていつたぜ、まるで野牛の仔が鳴くやうな聲をして。何て卑劣な奴だ汝は、劍にぎざくなんか拵へて、激しく戦つた爲に、如是になつたなんて！ さ、どう糊塗す、どう偽計む？ どんな鐵面皮だつて、斯う明白になつちや、逃路はあるまい？

フォールスタッフ 盾で一才顔を隠す。

ホイシ

さ、どうだ？ おい、どう糊塗すよ！

フォール

(盾を抛り出して) 勿論、お前だてことは、とうに知つてゐたんだ、お前を造へなすつた其お方同様に。ま、皆な、考へて見るが、いゝ。王世子さんを

王子

おれの手で殺せるかい？ 眞の王世子さんに手向ひが出来るかい？ (と言ひつゝ、劍を鞘に收めて) 知つてる通り、おれ、勇氣に於て、ハーキュリーズに劣るとは思はん。けれども本能は怖ろしいもんだ。獅子は眞の王の子に、齒を觸れないといふが、成程、本能は偉いもんだ。おれ、其本能の故で臆しちまつたんだ。將來は自分をも(王子に)お前さんをも、今までよりは買上げるよ。ま、これでおれが強い獅子だてことが分つたし、お前さんが眞の王子さんだてことも分つた。それはさうと、金を持つて來てくれたのは有りがたいや。…おい、内儀さん、扉口を閉ちまひな。今夜は夜明しだ、お祈りは明日だ。大將、兄貴、若い衆、豪傑、さ、有りつたけの仲間中の美しい名前をお前たちに與れてやるぜ。(と一人々々に握手して) さ、陽氣にやらかさうぜ…即席茶番でもやらうか？ やらう。筋はおのしの逃げ出すとこだ。

フォル あゝ、ハル公、もうそりや言ひっこなし、後生だ。

内儀 クイックリー用ありげに急いで出る。王子を見て

内儀 あゝ、もしく、王子さまの御前さま！

王子 や、何だい、御新さんの内儀さん！ 何か用かい？

内儀 へい、あの、お父さまのお使ひだとおつしやいまして、士爵何の誰とでもお

つしやりさうなお方が、貴下に御面會をお求めでございます。

王子 四勺でも五勺でも關つたことはない、酒の一升も飲ませて、母公の許へ追

返しておしまひ。

フォル どんな風の男だ？

内儀 お老人ですよ。

フォル 何で老骨なんか、此夜中に、寢床から出かけて来たか？ おれが往つて應

對しようかね？

王子 どうか然うしてくれ。

フォル 大丈夫、すぐ追拂つてくれる。

入る。

王子 さ、みんな聴きな。(皮肉に)お前達は、ほんとに、よく戦つたよ。……ピート

ーもなア。……バードルフもなア。お前たちも獅子だ、つまり本能で逃げ

たんだな。眞の王の子には齒を觸れないといふんだらう。へ、決して！

他の奴らが逃げ出したから、逃げたんです。

王子 なア、正直に言ひな、フォールスタッフの劍が、どうしてあゝぎざぐになつ

たんだい？

ピート へい、ありやその、短劍で以て叩き附けたんです、さうして斯うしときや、

大丈夫、戦つた爲に然うなつたんだと、貴下に信ぜさせることが出来るか

らって、わたしにも勧めて、同じやうにさせました。



バード さやうです。それから、濱麥で以て鼻を突いて血を出させて、それを衣服に塗附けて、大勢の人を斬つた血だと言へ、と吩咐けたんです。で、ついで、此七年間でものしたことのねえことをしたんです。あんまり怪しからねえ詐謀だから、おれ、それを聞かされた時にや、顔が眞赤になつたです。

このバードルフは大酒くらひで、其報いが顔に現はれて常住眞赤な顔をしてゐるのである。とりわけ其鼻は火が附いてゐるやうに赤い。それが此男の特色である。

王子 嘘を吐け、汝は十八年前に何處かで酒を一杯盗んで、現場で捉つてからもの、始終のべたらに赤い顔をしてるぢやアないか？ 面には火を燃やし、腰には劍をぶら下げてゐながら、汝は逃げたね。ありやどういふ本能の作用だ、ええ？

バード (憤として) 御前、(とおのが赤面へ指さしをして) 此光り物を御覽ですか？ 此火の

氣をり！

王子 うん。

バード これは何の前兆でございませう？

王子 さうさ、たかや、泥酔になり、素寒貧になる前兆だらう。

バード いゝえ、こりや疔癩持の證據でございますから、御用心なさいまし。

王子 なアに、たかや兇状持の證據だ。今に火あぶりになる前兆だ。……

バードルフ 憤れ返つて入る。

フォールスタッフ 又出る。

あ、ジャックの瘦ぼちが戻つて来た、骨ばかりが。……どうだつたい、お腹へ一ばい詰物をしてる先生！ (といひながら、フォールスタッフの肚をつつく、眺めて) ジャック、お前はもう何年自分の膝を見ないんだ？

フォール おれの膝を！ ハル公、お前くらゐの齡に、俺だつて厠の圍が鷺の爪ほ

どもなかつたから、どの町年寄の指輪の中へでも這込むことが出来たもんだ。苦勞はしめえもんだね！溜息をしつゝけると、體が自然と勝脱のやうに脹れ上つまふ。それはさうと、士爵ジョン・ブレイシーが、親父さんの吩咐で、けつたいな知らせを持つて來た。貴下は、明朝早く出廷せんけりやならんよ。あの北の狂人野郎のバーシーと、あのそれ、ウェールスの、何とか言つたつけ、それ、悪魔に棒打をくらはせ、悪魔長を阿呆扱ひにして、鎌槍の十字形で家來になる誓言をさせたとかいふ奴……畜生、あゝ、何とか言つたつけ？……

ボイン

あゝ、グレンダワーよ。

フォル

オーエン、オーエン、其奴だ。それから奴の婿のモオチマーとノオサンバランドの老爺とあの一等元氣な蘇國人のドーグラスめが、そら、あの屏風を立てたやうな丘をも馬で走り登らうていふドーグラスめが……

王子

フォル

あの速馬の達人だらう、短銃で飛んでる雀を射落すといふ男だらう。中つた。

王子

ところが、雀にやア逆も然う中りやアしない。

フォル

其悪黨めは、中々利かん氣の奴で、敗けても走らねえといふ話だ。

王子

だつて、今丘をさへ走り登るといつたぢやアないか？

フォル

馬鹿が！馬ぢやア走るんだ。けれども徒歩ぢやア一步も動かねえ。

王子

成程、そりや本能の所爲だらう。

フォル

うん、其通り、本能だ。で、まづ、そいつもゐる、モオデークで奴もゐる、尙其他に千人ばかりの青帽子がゐるんだ。ウーセスターも先刻脱走したて事だ。お前のお父さんの髭は、其知らせを聞いて、眞白になつちまつたさうだ。おい、今に地所が、臭い鯖と同じ價で、幾らでも買占められるぜ。

王子

ちや、何だね、此盛暑になつて、尙此内亂が續いてるやうだと、沓の鋌を買ふぐらゐの散財で、幾らも破瓜が出来るなう。

フオル

全くだ、其通りだ。大分其方面で面白いことがありさうだ。だが、なう、

ハル公、お前怖ろしいと思はねえかい？ お前は此次の王さんになるんだが、運命とはいへ、あんな怖ろしい奴を三人まで敵にすることが、二度

とあると思ふかい？ 夜刃のドーグラスに化物のパーシーに悪魔のグレンダワー！

お前はそれを怖かと思はないかい？ 體がぞく／＼しやしないかい？

うんにや、些も。お前とは大分本能が異つてるよ。

ねえ、明日親父さんの許へ往くと、きつと怖ろしくひッ叱られるに相違ないから、後生だ、其分疏の演習をしておきなよ。

ちや、お前が假におれの親父になつて、おれの品行の糺問をして見な。

王子

俺がか？ よし。此椅子が王座で、此短剣が笏で、此座蒲團が金の冠だ。

王子

ふ、其王座が腰掛とも見え、其笏が鉛鞘の短剣とも見え、其金の冠が、けちな禿頭とも見えるからをかしいや。

フオル

え、と、(四世王の假聲で) いさゝかでも聖徳の火氣が燃え残つてゐる以上、感奮しないわけにはゆくまい。……(自分に戻つて内儀を見返つて) おい、酒を一杯くれ、目を赤くしなけりや不可、泣いてゐたと見えるやうに。感慨無量といふ風に物を言はんければならん。カンバイシーズ王といふ呼吸でゆかうよ。

王子

(うやく／＼しく膝を突いて) 先づ斯う膝を突くよ。

フオル

そこでおれの白だ。……(四世王氣取で、思入をして) 公卿らは、暫時、かなたへ。

内儀

(こらへかれて、吹出して) おやく／＼！ ま、あの眞面目くさつた顔付といつたら！

と笑ふ。皆々笑ふ。

フオル (酔が廻つた口吻で、併し飽迄も四世王氣取て) 諸卿、お氣の毒だが、どうか彼女を伴  
れて行つて下さい、泣いてゐる后を。 涙で彼女の目の水門が塞つてしま  
ひさうだ。

内儀 (尙笑ひつゞけながら) おやまあ！ ほんとに、下等芝居をつくらだわねえ！ は  
は、は、は！

フオル シッ！ シッ！ お樽さん、お瓶さん、黙つて〜！ (又假聲で) ハーリー、  
予はお前が何處で日を暮さうと、どういふ手合を友達にしてゐようと、そ  
れを駭きはしない。と言ふのは、加密爾列草は踏まれは踏まれるほど  
倍々生長し、繁茂するからである。けれども若い者は徒に月日を送ると、  
忽ち衰勞に及ぶ。 お前が予の子だといふことは、一はお前の阿母の證言  
もあるからだ、一は予も然う信じてゐる。 が、取りわけ、お前の其變な

目付と下唇の何となく阿呆らしく垂下つてゐる所に骨肉の證明がある。  
で若しお前が果して予の子であるなら、こゝが要點だ。 何故、予の子であ  
りながら、世の嘲りを招くやうなことをするか？ 大空の太陽ともあらう  
者が竊々歩きをして、竊と木苺を摘んだり何かしてならうか？ 問ふに及  
ばんことだ。 英國王の太子ともあらう身が竊々盜賊になつて、民衆の巾  
着なんか引摺つてならうか？ ……いはずにやおかれんことだ。 ハーリ  
ー、おそらく豫て傳聞してもゐようが、世人の多くが普通、樞青と稱してを  
る品物がある。 右の樞青なる物は、古書に見えてをる通り、相觸るゝもの  
を汚す。 お前が仲間にしてゐる輩が即ちそれだ。 と言ふのは、ハーリ  
ー、予は今酔うて言ふのではない、泣いていふのだ、面白半分ではない、悲  
しいのである、只口で泣くのではない、心でも泣いてをるのである。 併しな  
がら、お前の仲間中に、只一人だけ感心な男があるやうに聞いてゐる。 が

其名前を知らない。

王子

失禮ですが、それは如何な様子の男でございませう？

フォール

威嚴のある、全く立派な男だ。肥満した、愉快な顔付の、目に愛敬のある、起居動作の堂々たる男だ。年齢は五十位か、或は六十近いかな。あゝ、やつと思ひ出した、名はフォールスタッフだ。よもやあの男が放蕩者だなんてことはあるまい。何故って、美德が顔付に見えてをるからだ。若し樹木の良否が其果で解り、果の良否が樹で解るものなら、直ちに予は、フォールスタッフは、賢者に相違ないと断言する。あの男だけを殘して、他は悉く放逐しなさい。それから、一體今月は何處にゐた？ いたづら者さ、それを言ひなさい。

王子 急に立ち上つて、

王子

ちつとも口吻が國王らしくないぢやないか？ … お前子になんな。 おれ

が親父の眞似をするから。

フォール

おや、おれの位を摹ふのか？ … (と椅子を離れながら) お前が演つて、口吻なり、内容なり、眞面目さや威儀さがだ、おれの演つた半分だけでも出来りや、おれを南京兎か軍鶏なんかのやうに、逆さ吊しにでもしてくんな。

王子

(代つて椅子に着きながら) 先づ斯う構へる。

フォール

と俺が爰に立つ。 … (衆を見返つて) どつちが巧いか審判してくれ。

王子

(四世王の假聲で) さて、ハーリー、お前は何處から來ました？

フォール

イーストチープから參りました。

王子

種々の容易ならん苦情を、お前に對して、申し出でてゐる者がある。

フォール

え、何ですって？ べらぼうな、そりや悉皆嘘です。 … (衆を見返つて) 見てゐな、おれが見事に若い王子に成りおほせて見せるから。

王子

(尙假聲で) 此不埒者が、べらぼうとは何だ？ 以後面會は許さん。 汝の墮

落は實に甚しいと言はんけりやならん。畢竟、肥満した老人に化けて汝に附纏つてゐるあの悪魔の所爲だ。あの酒樽の化物のやうな汝の友だ。何故あんな氣まぐれの容器を友達にするのだ、あんな下等な粉篩ひ箱を、あんな水腫のお化けを、あんな大きな酒囊を、あんな臍腑詰込みの大革靴を、あんな牛の孕ませ丸焼て奴を、あんな翁さびた道化を、あんな白髪頭の半道を、あんな爺の横道者を、あんな老込みの虚榮餓鬼を、どうして汝は友達にするんだ？ 試飲と大飲との他に、あいつに何の長所がある？ 手際よく鳥肉を切つて食ふ以外に、どういふ小手先の藝がある？ 猾いばかりが長所で、その猾いといふのも不埒なことに關してばかりで、何一つ感心する點はないぢやないか？

どうもまだよく了解いたしません、それは誰の事をおつしやるのですか？

フォル

王子

フォル

王子

フォル

若い者を誘惑して、忌むべき、淺ましい墮落の淵におちいらしむるあの白い髭のセタンともいふべきフォルスタッフの事をいふのだ。

あの男ですか？ あれは知つてゐます。

勿論、知つてゐる筈だ。

でも、あの男のはうがわたくし以上に不埒をしてゐるなんぞと言つては、知つてゐる以上を言ふわけになります。彼れは、成程、齡は取つてゐます、それは白い髭が證據です、が、それだけ氣の毒です。けれども、彼れを放蕩者だなんぞといふのは、お言葉ですけれども、全く無根のことです。酒や砂糖を嗜むのが罪過ですなら、あゝ神よ、悪人共を助けさせたまへ！ 若し齡を取つて快活なのが罪惡ですなら、宿屋の亭主なんか幾人もく地獄へ墮ちんけりやなりません。若し肥つてゐるのが憎むべきなら、埃及王の瘦牛共は可愛がられなけりやなりません。いゝえ、御前、お父さま、ピ

トートを追放して下さい、バードルフを、ポインスを。けれどもあの善良なフォールスタッフは、あの親切なフォールスタッフは、あの忠誠なフォールスタッフは、あの勇敢なフォールスタッフは、齡取つてるだけに尙と感心なんですから、彼れは何時までも陛下のハリーリーの親友に、傳役にして下さい、あの肥つたジャックを追放して御覽なさい、それは世界全體を追放するもおんなじです。

王子

うん、承知した。追放して見よう。

此時奥にて戸を叩く音。

内儀とフランシスとは、急いで入る。やがてバードルフがあわてゝ出て来る。

バード

御前、御前！ 町奉行がおそろしく大勢の組下をつれて店口へやつて来ました。

フォル

え、やかましいやい！……(王子に)さ、芝居を演ちまはう。まだフォールスタッフの爲になら、幾らも辯護することがあるんだ。

内儀又出る。

内儀

大變ですよ、御前さま！……

王子

(快活に)へい！へい！ そりやこそ悪魔が胡弓に騎つたぞ。……え、何が起つたい？

内儀

町奉行さんとお組下の大勢の衆が、家捜しをするって、店口へ来て、ございませう。通してもようございませうか？

王子うなづく。フォールスタッフあわてゝ、

フォル

おい、ハル公、純金を贖物だなんてッちや不可えよ。お前は、本體は狂人らしいや、見たところは然うもないやうだが。

王子

さうしてお前は本來の臆病者なんだ、本能なんか持出すまでもなく。

フォル 其大前提は忌避せざるを得ないね。いや、其町奉行どのを忌避するといふのだよ。奴をお前が忌避すりやア可し、忌避しないと、奴め入つて来るだらう。すると、おれも同じ因果車のお相伴だ！ お多分に洩れないで、此首根子を縊られちまふだらう。

王子 (フォルスタッフに) さ、早く、その壁代の陰へ隠れちまひな。……他の者は、二階へく。……さ、清浄な根性の、正直な面の者だけ残つてろ。

フォル さういふものを持合せた時代もあつたつけが、もう昔になつちまつた。だから、隠れるんだ。

王子 壁代の陰へ潜り込む。  
町奉行を呼んで来い。……

王子とピートーだけを残して皆々入る。町奉行、擔夫を伴れて出る。

奉行 (奉行に) ところで、わたしに用とは何ですり？

奉行 御前、失禮御免下さいませう。只今大騒ぎをしまして、或三四人の者を、たしかに此家へ追込んだのでございます。

王子 どんな奴らを？

奉行 其中の一人は、誰でもよく存じてをりまする、大きな肥つた男でございませう。

擔夫 脂肪の塊りのやうな男でございます。

王子 其男なら、こゝにやアゐないよ、大丈夫。丁度今わたしが其男を使ひに遣つた。町奉行、わたしが約束します、明日の午餐時に、彼男を足下なり、何

人なりの處へ差出させよう、如何いふ罪科があるのだから。だから、今日は引取つて下さい。

奉行 承知いたしました。二人の紳士が、彼等の爲に、三百マルクを強奪されま



王子

したのでございます。

然ういふことをしたかも知れん。いよく彼男が其人々を剝いたとすれば、其罰を受けんけりやなるまい。ぢや、さやうなら。

奉行

ではもう今晚は！ 御機嫌よろしう。

王子

もう朝だらうッ！

奉行

はい、いかさま。もう二時でもございませうか。

代官と擔夫とは會釋して入る。

王子

あの脂肪のお化けめ、セント・ポール院ほどに見知られ切ッてゐやがる。……おい、奴を呼び出したな。

ピート

フオールスタッフ！ (と大きく呼びながら、壁代を引分けて見て、王子に) 壁代の蔭で寝込んで、その息づかひは！ 衣囊を探して見な。(ピートー衣囊を探る) 何

王子

が有つた？

ピート

紙片ばかりでございます。

王子

調べて見な、何だか？……讀んで見な。

ピート

(讀む)

一、鶏肉 一斤……二志、

二片

一、注汁(醬油) 四片

一、酒 二升五合 五志、

八片

一、鯉並にお夜食後のお酒

二志、六片



一、麵麩 半斤

王子

お、呆れたなア！ どうだ、此おそろしい酒の量に對して、麵麩はたつた半斤だぜ！ まだ他に何か有るなら、しまつとけ、都合の好い時分に讀んで見るから。さうして午時まで寝かしとけ。明けたら予は朝廷へ往く。きつと衆人が戦に往かなくちやならんことになるだらうが、汝にや名譽の位置を貫つてやる。此（とフォールスタッフへ思入して）肥つちよには、歩兵隊長の職を貫つてやらう。十二時間も駈足をさせりやア、奴め平伏ちまふだらう。……奪つた金は、利子を添へて、拂ひ戻すことにしよう。朝は早く起きて来てくれ。ぢや、さよなら、ビートー。

ビート

ぢや、お寝みなさいまし。

入る。  
\* \* \* \* \*

第三幕

第一場

ウェールス國の都會バンゴア。

副監督の第

熱拍車

ヘンリー・パーシーとウーセスター伯トマス・パーシーとマーチ伯

エドマンド・モオチマーとモオチマーの舅 ガーエン・グレンダワー出る。

モオチ

此等の條件は、いづれも正當である。又此手合も信頼するに足りません。要するに、幸先が頗るよろしい。

熱拍

モオチマー卿にも、グレンダワー君にも、御着席を願ひたい。……ウーセス

ターの伯父さんにも。……くそッ！ つい地圖を忘れて来た。

グレイン

いや、地圖なら爰に在ります。お掛けなさい、バーシー君。ねえ、お掛けなさいよ、熱拍車……貴下の其「熱拍車」といふ名を、あのランカスター（ヘンリー四世）が口にするたびに、頬が蒼ざめて、ふとい溜息をして、貴下を天へ遣りたがったのですよ。

熱

さうして貴下を地獄へね、オーエン・グレンダワーといふ名を聞くたびに。

グレイン

（傲然と得意げに）そりや無理もないと思ひます。わたしが生れた其日には、大空一面に、炎々と燃え立つ篝火のやうな種々の光り物が現れ、わたしが産聲を揚げると同時に、此堅牢な大地の基礎が、恰も臆病者のやうに、戦き震つたと言ひますから。

熱

（冷然と聞流して）だつて、そりや何でせう、若し同時刻に貴下の母さんの猫が仔を生んでも震動したでせう、貴下が生れなくつても。

グレイン

いゝえさ、わたしが生れると同時に、地球が震動したといふのです。

熱

いゝえね、地球とわたしとは、大分料簡が異つてるといふのです、若し貴下を恐れて震へたり何かしたのなら。

グレイン

（尙かたくなに）大空一面が火となつて、大地が震動したんです。

熱

（尙ましく冷然と）あゝ、ぢや、大地の奴、その大空が火になつたのを見て震えたのでせう、貴下の生れたのを怖がつたのぢやアない。自然界も時々病氣に罹つて、奇怪な爆発をやらかしまさアね。一ぱいに内容を詰め込まれてるので、どうかすると地球めが腹痛に悩まれます、始末に行かない風が胎内に溜つたりなんかするとです。そいつが脱出しようとして、婆さんの地球を揉立てるもんだから、苦蒸した城や塔やが顛覆へる。貴下の生れた時にも、祖母さんの地球が、恰ど其持病を起してゐた時かなんかで、震えたのでせう。

グレン (佛然としたが、漸く自ら制して) パーシー君、大概の者になれば、そんな異論を言はせては置きません。失禮だが、もう一度言ひます、わたしが生れた際には大空一面に光り物が現れ、山羊が山々から駈出し、野にゐた家畜類も、不思議にも、駭き悸えて、わめき騒いだのです。既にそれらの前兆によつて自分が非凡の人間だといふことが豫期されてゐたのでした。世に出てからの閱歴もまたわたしの尋常人でないことを證してゐます。英國とスコットランドとウェールズの海岸に雷の如く打寄せてゐる荒浪に取圍まれてゐる蘇國の中で、假にもわたしを弟子と呼んだり、彼れに教へたと言つたりし得る者が何處に在りますか。苟も、女人の胎から生れた者で、此神變不思議な祕法祕術の實驗に於て、假にもわたしと拮抗し得る者があるなら、伴れておいでなさい。

熱 (冷かし口調で) 逆もそんなに上手にウェールズ語を喋舌る者は無いでせう。

モオチ あゝ、肚が減つて来た、食事にしませう。

(はらくして小聲で) これく、パーシー君! 好い加減になさらんと、あの男狂氣になつちまひますよ。

グレン (いよく眞劍になつて) わたしは大海原から精靈共を呼び寄せることも出来る。

熱 そりやわたしにでも出来る。だれにだつて出来る。だが、奴等が來ますか、實際? あんたが呼んだ時に?

グレン わたしは貴下に惡魔を使役することを教へることも出来る。

熱 わたしはまた、随分其惡魔に赤い顔をさせることも出来る、眞實を言つて。そら、眞を語つて惡魔をして恥ぢしめよ。若し足下に奴を呼出す神通があるなら、伴れておいでなさい、わたしは、誓つて、赤恥をかゝせて、追拂つてくれるから。おゝ、貴下もねえ、生きてる以上、眞の事を言つて、

悪魔めに赤い顔をおさせなさいよ！

モオチ これく、もうそんな詰らん議論はお止しなさい。

グレン

(まさしく真剣に)三度までもヘンリー・ボリングブロック(四世王)がわたしを  
征服しようとして試みたが、三度までもあのワイ河やあの砂底のセグーン河か  
ら、何の得る所もなく、無一物で、さんく雨に撲たれて、這々の體で、本國  
へ退却に及んだ。

熱

さんく雨風に打たれ、而も無一物で、這々の體！ よくまア瘡にとつつか  
れなかつたねえ！

グレン

(じつと自ら制して、話頭を改めて)さア、こゝに地圖があります。では、お互ひの  
権利を分配しませう、先刻定めた三箇條に随つて。

モオチ

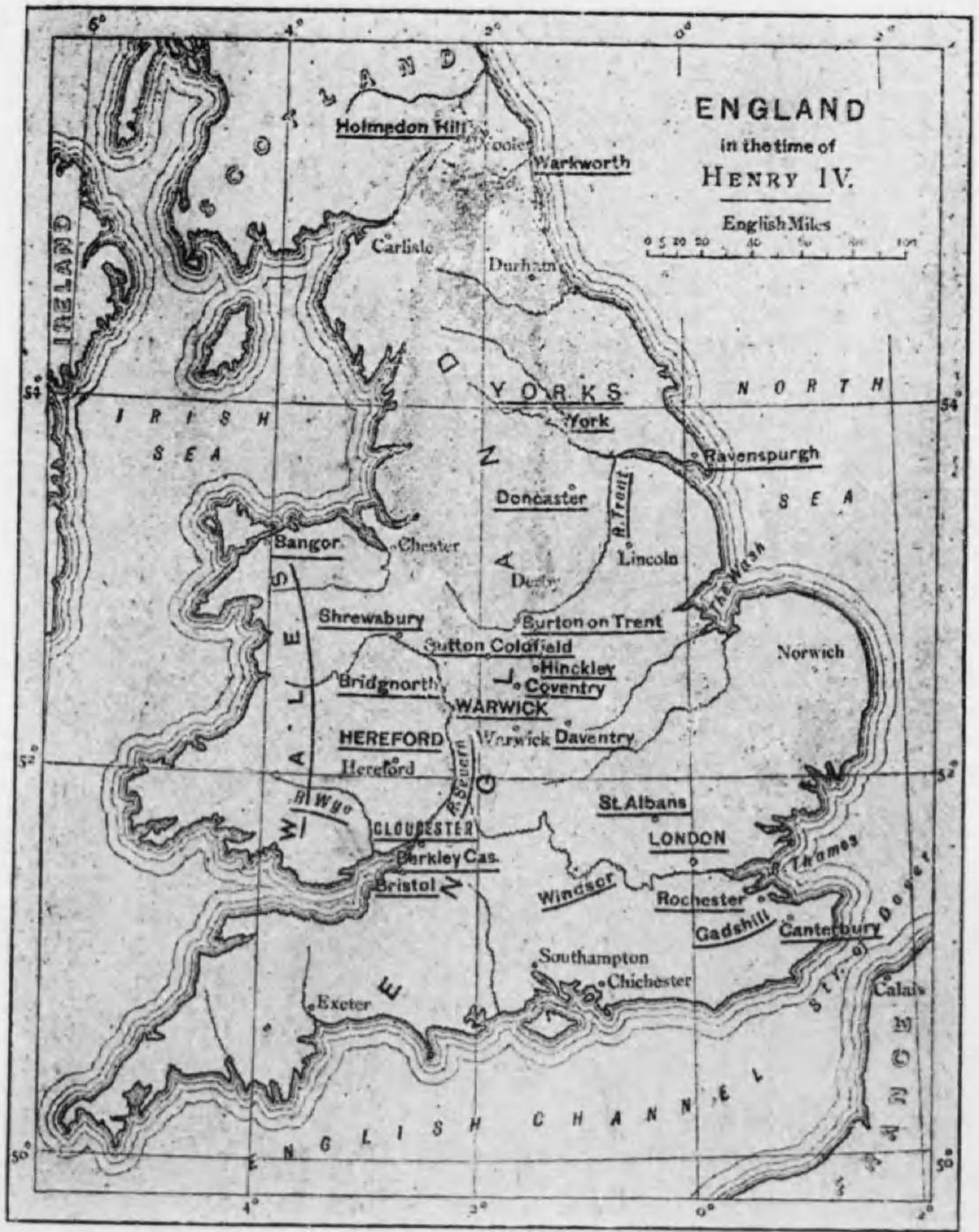
副監督は、至極公平に、同等に、三分せられたと考へます。トレント(河名)  
から此セグーン(河名)までの英國、即ち南と東とが手前の分で、すべて西

の方面、即ちセグーン河岸以西のウェールズ並びに其領域内の沃土一圓は  
オーエン・グレンダワーの有。バーシー君、貴下へは、トレント河から向う  
の、残つた北方全部。で、三重の條約書を起稿して今夜のうちにお互ひに  
捺印を済して、明朝、バーシー君、貴下とわたしとウーセスター卿とが出發  
しようといふのです。豫定通り、貴下の御親父及び其率ゐてござる蘇國  
兵と、シュリユースベリーで一しよになるために。舅グレンダワーはまだ  
少々準備が整ひかねてゐますが、此十四日間は、必ずしも急いで来て貰ふ  
にも及びません。……(グレンダワーに)其間に貴下は借地人や親族や同志や附  
近の者共をお集めなさることが出来ませう。

グレン

もちつと早く諸君と御一しよになれるだらう。婦人たちはわたしを警護  
して參ることにしませう。さしあつては、わざと喉乞をしないで、竊と  
出掛けなさらねばなるまい。で無いと、妻女たちとの別れは雨降騒

熱  
（此間類  
りに地圖  
に見入つ  
てゐたが  
不平さう  
に）此  
バアト  
ンから



北のわたしの分は、貴下たちとは同等とは思はれない。御覽なさい、こゝへ此河が廻り込んで来てゐて、わたしの領分の一等好いとこが、大きな怪しからん半月形に削り取られちまつてる。こゝとこで此河を堰ちまつて貫はう。さうすりや、あの立派な銀色のトレント河が爰に一新流を形成つて、好い具合に流れるだらう。如是風に、いやに列つて、曲り込ませないやうにしたいねえ、肝腎の山峽の好い地面を取られて堪るもんぢやアない。

グレン  
曲り込ませないやうに？ そりや是非曲り込みますよ。さういふ地形なのですから。

モオチ  
さやう、（熱拍車に）だが、ま、御覽なさい、奴（トレント河）は流れくゝてわたしの方へも曲り込んで来て、他方に對して同様の利益を與へてゐる。即ちそつちで貴下から奪つたゞけの地面を、こゝで償つてゐるといふもので

す。

ウーセ さやう、が、少々せうくの費用ひようをかけりや、そこで此河このかはの流れながを轉てんずることは出來できよう、すると、此北方このほくほうに、これだけの半月形はんげつけいの地面ぢめんが殖よえて、河かはは眞直まっすぐに、好いい具合ぐあひに流ながれることになる。

熱 然さうして貫ぬひたいねえ。少すこし費用ひようをかけりや出來できる。

グレシ わたしはそんな風ふうに變かるのは好このまない。

熱 好このまないい？

グレシ 好このみません。貴下あなただつて強しひてとはいふまい。

熱 だれが不可いけいと言いひます？

グレシ わたしが言いひます。

熱 ぢや、わたしに解わからないやうにお言いひなさるが可いい、ウエールス語ごで。

グレシ いゝや、英國語イギリスごで言いふことが出來できます、貴下あなたたちと同じに。わたしは英國イギリス

の朝廷てうていで教練けうれんを受けられた者ものだ。幼少ちようせうの頃ころ、豎たて琴ごに合あせて歌うたふ小唄こなたを、可憐かれんな小唄こなたを幾いくらも英國語イギリスごで韵みんや平仄ひやうそくといふ粧飾かざりまでも整ととのへて綴つづつた。さういふ藝げいは、決けつして貴下あなたなぞには出來できんことだ。

熱 出來できなくつて却かへつて此上このうへもない幸福しあはせだ。

そんな月並調つきなみてうの小唄作者こなたさくしやなんかになる位くらのなら、小猫こねこに生れ代かはつてニヤオとでも鳴ないたはうがました。眞鍮しんちゆうの燭臺しゆくたいを只今ただいま旋盤せんぱんで製造中せいぞうちゆうのを聞きいたり、油無あぶらなしで車くるまの輪わをぎり〜廻まはすのを聞きいたりしたはうがました。まだしも其そのはうが齒はを浮うかさない



や、いやに氣取つた拙唄なんかよりやア。疲勞馬のよたくよろしくと來た日にや、やりきれないからねえ。

（じつと自ら制して、蟲を殺して）では、トレント河を廻流させることにしませうよ。

グレン

熱

どうでも可いんだ。（獨語のやうに）實際立派な身方だと思やア、其三倍の領地だつて、喜んで與れてやる。けれども取引である以上、毛一筋の九分の一の爲にだつて、一步も譲らないぞ。…約定書は出來ましたか？ もう出掛けてもいゝのですか？

グレン

月が佳いから、夜中にお出掛けもよからう。どれ、急いで書記に書かせませう。序に御出發の事を妻女たちへ知らせませう。あゝ、女が狂人のやうにならねばよいが、一圖にモオチマーのことを思つてゐるから。

グレンダラー入る。

モオチ

熱

ねえ、パーシー君、困るぢやないかね！ あんなに舅に逆つちやア。

どうも爲様がないよ。つい癪に障るんだからね！ 土鼠だの、蟻だの、寢惚仙人のマアリンだの、其奴の豫言だのと喋舌り立てられた時分にやア！

龍だの、鱧のない魚だの、翼を切られた獅鷲だの、羽拔の鴉だの、臥てる獅子だの、立つてる猫だのと言ふ、到底信ぜられない瞞着を夥多疊み掛けられた時分にやア！

實際、昨夜なんか、少くとも九時間といふもの俺を引附

けといて、平生使つてるとかいふ種々な惡魔の名を竝べ立てたんだよ。

「ふん、成程々々」などと云つちやアなれたけれども、其實、ちつとも聴いちや

ゐなかつた。おゝ、彼れア實に焦れたい男だ、疲れ馬に乗つたよりも、お

喋舌り嬢に捉つたよりも、くすぶり小屋中へ閉込まれたよりも。乾酪と

太蒜だけ持つて、風車の中で暮したはうがました、あの男の話を聞くよ

りア、よしんば文明國の立派な別荘の中で、旨い物を食ひながら聞くにして



もだ。

モオチ

だが、あの仁は、實際、立派な紳士ですよ、非常に博く書を讀んでもをり、又不思議な神通力を得てをつて、獅子のやうに勇敢でもあれば、駭くほどに親切でもあれば、又印度の鑛山かと思ふやうに、金銀を惜まない。ねえ、パーシー君、實際、舅は貴下の氣質を非常に尊敬してゐるのです、だからあんなに貴下が逆つても、決して例のやうには腹も立たないでゐる。全く自制してゐるのです。實際、貴下がしたやうに彼の仁に突掛つた者で、危険な叱咤を経験しなかつた者は、曾て一人もないのです。どうかもうあんまりあゝいふことをなさらんやうに。

ウーセ

(熱拍車に) ねえ、ほんとに、貴下はあんまり皮肉過ぎて宜しくない。貴下がこゝへ來てから、何度あの仁の堪忍袋を切らせかけたか知れない。其わるい癖を是非直すやうになさい。稀には、それが爲に、偉くも勇敢にも大

膽にも見えることもあるが……たかゞそれだけの效能で……概して、短慮とか、無作法とか、自制力の缺乏とか、高慢とか、倨傲とか、自負とか、侮蔑とかの徴候になるのみだから、それらの惡癖が附いて廻ると、とかく人望を失ひ、他に美德があつても、それがそれらの爲に汚されて、折角の賞讃を剝奪されてしまふ。

熱

成程、御もつともです。せいゝく禮儀や作法を御大切になさいまし。あ、妻君連が來ました。暇乞をしませう。

グレンダラー婦人連を伴ひて出る。

モオチ

こればかりは實に焦つたくて腹が立つ。妻は英語が話せないし、わたしはウエールズ語が駄目だ。

グレン

(モオチマリーに) 我女は泣いてゐます。貴下に別れともないのです。彼女は、軍人になつて、戰場へ往きたいと言ひます。

モオチ お父さん、彼女も伯母のパーシーも、すぐに貴下のお侶をして後から來るのだ、と彼女におつしやつて下さい。

グレン ダワー 彼女のモオチマー夫人にウエールス語で何か話す。夫人もウエールス語で何か答へる。

グレン (モオチマーに) 彼女は自暴になつてゐるのです。我儘な没分曉子めが、幾ら説得しても駄目なのです。

モオチ 此時夫人何事かをウエールス語で夫のモオチマーに話す。

お前の其目付はよく解るよ。その二つの小ちやな碧空からお前がぼたぼた降せる可愛らしいウエールス語だけは、わたしにもよく解る。人目が無けりやアわたしも其同じ語で返辭がしたいんだけども……

夫人又ウエールス語で何か言ひつゝ、接吻する。

お前のキッスは解るよ、わたしのも解るだらう。斯ういふのが身に染みる

グレン 話といふのだ。だがねえ、わたしアお前の國の語を覚えつちまふまでは、決して怠け者にやならんよ。お前の口から聞くと、ウエールス語が高尙な格調で出來てゐる小唄かなんかのやうに思はれる。夏の四阿か何かで、美しいお妃さんが、自身の琵琶に合せて、なつかしらしく歌つてゐるのかと思ふよ。(と言ひつゝ泣く)。

モオチ (モオチマーに) これく、あんたがそんなに泣くと、彼女は狂人になつてしまふ。

夫人又ウエールス語で泣くく、何かいふ。

モオチ お、こりや全然解らない!

グレン (慰めて) 彼女は貴下に茂りに茂つてゐる葭の上へ横になつて、彼女の前垂の上へ頭をお載せなさい、貴下の氣に入るやうな唄を歌ひませう」と言つてゐる。さうして「貴下の臉へは睡眠の神を宿らせて、快く眠たくなるや

うにして、夢現の境を恰ど夜晝の境、即ちあの日の神の金の車が方に東方から軋り出ようといふ、つい直前の時刻のやうに感ぜさせてあげたいと言つてゐる。

モオチ わたしは喜んで其唄を聴かせて貰ひませう。其間には約定書の浄書も出来るでせうから。

グレン さうなさい。…其合方を奏する樂人共は、(俄に態度を改めて)たとひこゝから三千里も離れた中空にぶら下つてゐようとも、忽ちこゝへ呼寄せよう。すわつて聴いておいでなさい。

熱 (例の冷やし口調で) さア、ケート、お前は横になることの名人だ。さ、早く早く、頭をお前の前垂へ載けたいから。

熱夫人 ま、氣まぐれな!

このうち何處よりともなく音楽が聞えて来る。

熱 悪魔め、ウエールス語が解ると見えるな。中々巧いや音楽が、實際。こい

つア不思議だ、奴ら中々飄軽な氣まぐれもんだなア。

熱夫人 ちやア、貴下なんかは尙と音樂者でありさうなもんですねえ、氣まぐれだらけなんですから。さ、肅としていらつしやい、あの奥さんがウエールス語でお歌ひなさるんですから。

熱 おれ寧ろ牝犬御前か何かが愛蘭語で吠えてくれりやア可いと思つてる。

熱夫人 お頭を破つてもいゝのですか?

熱 いけない。

熱夫人 ちや、肅としていらつしやい。

熱 いけない、それも。そりや女の惡癖だからね。

熱夫人 ま、どうしたらよからう!

熱 なアに、一しよに寝かせさへすりや可い。

熱夫人 え、何ですッて？

熱 しッ！ 歌ひ出した。……

モオチマー夫人 ウェールス語の小唄を歌ふ。

さ、ケート、おれにも一つ聞かせてくれ。

熱夫人 わたし、眞、いやでござんすよ。

熱 眞、いやだと！ おい／＼、ケート、そりや宛然菓子屋の内儀といふ口吻ぢ

やないか？ 眞、いやでござんす」だの、「斯うして生きてます通りに」だの

「神さまが直して下さりますによつて」だの、「晝間のやうに慥かに」だのと、

フィリスベリーより向うへは踏出したこともないやうに、そんな猫撫聲の

誓言をするのか？ おい、ケート、もつと貴婦人らしく、口端ッたいやうな

誓言をいひな、「眞」なんて、そんな胡菽入り生姜糖的の文句は、あの祭日の

天齋絨飾りの町人共の専賣にしときな。……さ、お歌ひ。

熱夫人 わたしは歌ひません。

熱 歌は裁縫師になるには一等妙だし、駒鳥の教師になるにも都合が好いぜ。

約定書が書けたら、此二時間以内に出掛けるんだ。だから、若し来たかつ

たらお出で。

と言ひ捨て、入る。此うちにモオチマー夫人の唄終る。

グレン さ、さ、モオチマー。貴下は氣長過ぎる、パーシー君は氣短か過ぎるが。……

：もう約定書が書けたらう。調印をするだけだ、それが済めば、すぐに出

馬だ。

モオチ はい／＼、承知しました。

みな／＼入る。

第二場 ロンドン。王宮内。

四世王、王世子ウエールス公ハリー及び其他出る。

王 諸卿席を避けて下さい。ウエールス公と少々内談をせねばならんから。しかし近くゐて下さい、程なく用があるから。...

公卿ら入る。

王は、形を改めて、王子に對つて、

或は上帝の思召かも知れない、予の行爲中にお怒りに觸れることがあつて、豫め御内定遊ばされて、我骨肉を以てして、予に報復と懲罰とを下されるのであるかも知れない。お前の行動を見聞くにつけて、予は、お前は、全く天が予に烈しい罰を下される爲に、豫め選びおかせられた者だと信ぜ

王子

ざるを得ない。さうでなくて、どうしてあんな無法な、卑劣な、下等な、淺ましい行動をしたり、あんなくだらん道樂に耽つたり、あんな野卑な友達と同輩交際をしたりすることが出来ます、堂々たる王家の嫡流たる身分で

ありながら？ 失禮でございますけれども、わたくしは其お叱りに對しては、悉くそれを清淨に申し開きがしたいのでございます、大部分は覺えのないことであると申しても差支ないと信じてゐますから。けれども、つまり、是れだけの御赦免を願ひます、兎角その、上に立つてお在の方は、卑劣な阿諛諂笑の徒輩から針小棒大の噂をお聞きにならざるを得ないので、ですから、半ば以上、それが原因でありますけれども、わたくし自身も、年の若い爲に、多少放縱い行動をしたといふ事實もあります、ですから、それを正直にお詫しますから、どうぞお赦し下さいますやうに。

王

あゝ、神よ、どうかお赦し遊ばしますやう！……だが、一體、どうしたといふのだ、ハリー！ 先祖代々以來曾て例のない奇怪な方角へばかり心を飛ばすといふのは？ 議會に於ける職權をもお前は彼の粗暴な一擧の爲に失つてしまつて、今は弟（クラレンス公）がお前に代つてゐる。のみならず、王族も廷臣も、擧つてお前とは交際をしない。たれも彼れもお前の將來には絶望してしまつてゐる、一人として、もうお前は駄目だと思つてゐない者はない。思ふに、予とても、若し妄に民衆に接觸して、面を見知られ、平凡な、安價な者とされてゐたなら、輿論が予に王冠を戴かせるやうなことはなかつたでもあらう、彼等はやつぱり故の王冠の持主に忠勤を盡し、予は何等の名聲もなく、位ももなく、出世しさうにもない男として、外國に放浪してゐたでもあらう。ところが、稀にしか顔を見せなかつたので、動けば則ち彗星のやうに、世人が駭いて詠めた。で、奴らは其子供らに對

つて「彼れが其人だ」と言つた。或は「え、どこに、それがボリングブロックだ？」なぞと叫んだ。さうして、其際、予は有りッたけの愛相を天上から盗み出して來て、力めて謙遜を粧つた。それが多數者の悦服を得た所以であり、歡呼喝采を博した所以である、時の正統の王を目前に据ゑて置きながら。斯うして予は、常に自分を新鮮なものにしておいた。予は身體を法王の大禮服が、容易に見られんから、驚異の念を以て仰がれるやうに、只稀にのみ目覺しく現すやうにしたから、其稀な爲に、非常に莊嚴に感ぜしめた、大祭典か何ぞのやうに。輕卒な王は、淺薄な幫間共や線香花火のやうな小才子らと一しよになつて、跳廻るから、すぐに燃え切つちまふ。ちよこまかした阿呆共と一しよになつてゐるために、威が落ちる、其立派な名は其奴らの侮蔑によつて汚される。身分をも思はず口穢い小僧の嘲りをも寛容する、まだ髭も生えんやうな奴らのくだらん駄洒落の敵手になる、

裏店や露路へも出入する、すつかり下司仲間の人間になつてしまふ。然う毎日々々人目の曝し物になつてゐるので、民衆は蜜に壓いて、遂に甘味を厭がるやうになる。然うなると、ほんの少し多いのが多過ぎてならんといふことになる。で、彼れが稀に出掛けても、もう六月の郭公だ、だれも耳は傾けない。よし見るにしても、とうに飽いたといふ目付で見る。稀に輝く大日輪のやうな威嚴者を仰ぐ時のそれとは異ふ。眼蓋を垂れて眠たさうにして見る、恰ど仇敵を見る時の澁面といふ格だ、もう存分見飽いた奴だといふ風に。ハリーリーや、お前が正に其境界に立つてゐる。お前は、王子たるの特権を、下等な交際の爲に、失つてしまつた。だれの目も、もうお前を見飽いてしまつてゐる。予の目だけが、どうかもつと多くお前を見たいものと願つてゐた。其目めが（と言ひかけて涙を拭ひつゝ）馬鹿な奴で、予の本意ではないのに、女々しくなりをつて、つい予を盲にしてしま

ウ。

王泣く。王子も流石にしんみりとなる。

王子

これからは、お父さま、きつと注意いたします。

王

今日只今までのお前は、たしかに、あの時分のリチャード（前王）宛然だ、予が佛國から攻入つて来て、レーヴンスバアクへ上陸した時分の。あの頃の予に當るのが、今のバ



ーシーだ。そこで、たしかに、あのバーシーの方が王世子の影法師たるに過ぎんお前以上に、王位継承の主張力を有つてゐる。何故といふに、彼れは、権利は勿論、権利らしいものをさへも有つてゐないでゐて、それでゐて、軍馬を驅催して、獅子の猛しい願ひにも刃向かはうとしてゐる。さうして年齢はといふと、お前とおつかつつで、老年の貴族や高齡の僧官らをひきゐて、四肢を痛める重い鎧を引掛けさせて、残酷な戦争をさせようとする。彼れは有名なドーグラスと戦つて、既にもう不朽の名譽を得たぢやないか？ 彼れの大功勳は、彼れの猛烈な侵襲や勇戦の話は、多數の武人階級の無上の名譽話になつてゐる、基督敎國の全部に亙つて。あの熱拍車は、襍褌中のマーズともいふべきあの幼軍神は、三度までも戦つてドーグラスを敗つて、一度は擒にして、放免して、さうして身方にした。それは、奴に予に對する満口の挑戦を叫ばせて、我王座の平和と安寧を震動

させよう爲だ。……それから、此事をお前如何思ふ？ と言ふのは、バーシーとノオサンブランドとヨオクの大監督とドーグラスとモオチマーとが今度協約して謀叛をした。……(といひかけて歎息をして)だが、何の爲に、如是ことをお前に話すか？ ……なう、ハリー、予の敵の事をお前に話したつて爲様がないわけだ、お前がその、予の一等身近な、一等重大な敵なんだからなう。お前は、卑劣な、氣まぐれな、臆病な根性から、随分バーシーの配下にもなつて、却つて予に刃向ひさうなこつた、彼奴の尻に尾き廻つて、彼奴の鬚面に服従しさうだ、墮落さ加減を見せるために。

王子 (慨然として) そんな風に考へて下さいますな、決してそんなことはしませぬ。上帝、どうか、これ程までに陛下の心をわたくしから離れさせた奴等の罪をお赦し下さい！ わたくしは然ういふ不名譽を、きつとバーシーの首を斬つて、償ひます。さうして、或名譽の凱旋の日に於て、大膽に、貴下



の子たるに恥ぢない所以を申し上げて御覽に入れます。其時には、わたくしは血だらけの服を着て、血だらけの假面を被つて參るでせうが、それを洗ふと共に、過去の恥を洗ひ落してしまひます。さうして、それは、何時だか知りませんが、今お話の其名譽の寵兒の、其勇猛な、天下の褒め者である熱拍車が、殆ど貴下の念頭のない他のハーリーと衝突つた時でありませう。彼れの兜に止まつてゐる名譽よ、無數無量であれ！ おれの頭上の恥辱は二倍にも三倍にもなれ！ 今に見ろ、あの北方の青年めに、其有りたけの名譽を、おれの此不名譽と交換させてくれる。パーシーは、お父さま、彼奴はわたくしの代理人です、わたくしの爲に種々な名譽を募集してゐるのです。今にわたくしが彼れに決算を命じます、其募集した名譽は、些少な少額の名譽までも引渡させます、渡さなけりや、奴の心臓から其勘定を裂いて取ります。(といひつゝ、跪いて) 上帝も照覽あれ、わたくしは

今それを誓約します。若し神のお恵みによつて、それを履行し得ましたなら、わたくしの不品行の古疵を、どうぞ御寛大にお扱ひ下さいますやうに。で無ければ、一命を終つて一切の債務を解くことになるでせう。わたくしは此誓約の一部分をでも破る位なら、一萬回も死んで御覽に入れます。

王  
それでもう謀叛人が一萬人も死んだ！ 以來はお前に命令權をも無上の信任をも與へる。……

士爵 アラント 出る。

どうしたのだ、プラント？ 大層急込んでゐるやうだが。

フラン  
急いで申し上げねばならん儀がございます。蘇國のマーチ伯(シヨールジ・ダンバー)から申し越しました所によりますと、ドーグラスと英國方面の叛軍が、本月十一日にシユリユースベリーで會合いたしましたさうでございます

す。若し各方面が手配り通りに運びましたなら、其兵力は未曾有の強大な叛軍だとのことでございます。

王

今日既にウエストモリアランドの伯が、我子ランカスター卿ジョンと一しよに出陣した。と言ふのは、もう五日も前に其事が知れてゐたからである。次の水曜日には、ハーリー、お前が出発する、木曜日には予が親ら進軍する。會合地はブリッヂノオスだ。ハーリー、お前はグロースターシャーを通過するが可い。さういふ段取にして見ると、今から約十二日目に全軍がブリッヂノオスで會する事になるだらう。種々すべき事がある。さ、あちらへ。人間がぐづくしてゐると、天の利も地の利も弛んでしまふ。入る。

第三場 イーストチープ街。酒亭猪頭軒

フオールスタッフとバードルフと出る。

フオール

バードルフ、此間のあの活動から以來、おれア情けねえ程に縮小りやしないかい？ 痩せやしないかい？ 凹みやしないかい？ だってよ、皮が弛んで、お婆さんの長上被よろしくとなつてやがるもの。ジョン林檎の店ざらしてイ鹽梅式に皺が寄つてやがら。さうだ、今のうちに後悔しとかうよ、急いで、相應に健康でゐるうちに。もう直に元氣がなくなつてしまひさうだ。然うなると、後悔するだけの氣力もなくなるだらう。若し俺が教會の内部は如何な風だてことを覚えてるやうになつたら、もうおぢやんだ、胡椒だ、酒屋の馬だ。教會の内側！……あゝ、みんな友達の所爲だ！

バード ジョンさん、さう焦々しちや、もう長持やアしませんせ。

フオル 全くだ、その通りだ。おい、小唄でも歌つて、陽氣にならせてくれ。おれア本来は紳士らしい徳の高い生附だつたんだ。稀にしか怒罵りやアしなかつた。賭博なんか、たかゞ一週間に七度ぐらゐのもんだつた。借りた金は返したよ、三四度も。好い具合に、程よく生活してゐたんだ。けれども今は滅茶々々だ、程も木瓜もあつたもんぢやない。

バード そりや其筈でさ、あんまり度外れに肥つてゐなざるからだ、程も木瓜もありやしませんや。

フオル なア、汝も其面を改造しなよ、すると、おれも生活の改造をやるから。汝は提督旗艦だ、其證據には挑灯をば船尾の高甲板に揚げてゐやがる。と思つたら鼻だつた。して見ると、汝は炎々燈の勳爵士だらう。

バード (憤れて) わッしの面附が如何なだつて、あんたの御厄介にやなりませんよ。

フオル ならんとも、決してならんよ。寧ろ利用するよ、人は鬮體を、あの死の記念て奴をさへ利用するからね。おれは汝の面を見るたびに、焦熱地獄を思ひ出したり、赤い服を着てたといふダイヴス(古代の富豪)を懐ひ出したりするよ。奴アそれを着込んでたんで、まるでその、火あぶりよろしくて風だつた。少しでも汝に善人らしい所がありや、俺は其面を引合にして誓言してやらアな。それは斯うだ。「天の輝く御使たる證據の此炎によつて」

と。けれども若し其面の火が無かつたなら、汝は駄目だ、まるで暗黒の兒になちまつたらうぜ。此間も、おれの馬を捉へようてんで、汝はあのガッツヒルを駆登つて行つたらう。あの時、おれは、ほんのこつた、汝を狐火か、で無けりや人魂だらうと思つた。全く汝は陽氣な男だ、何故ッて、始終鼻先でお祭騒ぎをして花火を燃してゐるぢやアねえか? おれや、汝のお底で、火把を一千マルクがた助かつたぜ、夜中に酒屋廻りをして、汝と一

しよだつたから。だが、酒を汝に飲ませたのを差引くと、歐羅巴の一等不  
廉い手燭屋で燭火を買つたはうが利方だつたかも知れない。此二三十年  
おれ始終汝の、その「焼けず蜥蜴」に火を喰はせくして、養つて来たも  
のだ。……神よ、どうぞ其御褒美を下さいまし！

バード (いよく慣れて) え、うるさいねえ、それほどおれの面が氣になるなら、お  
前さんの其土手ッ肚へ收藏んどいたらよからう。

フオル 眞平々々！ それこそ胸が焼けてくゝ爲様があるまい。……

内儀 クイックリー出る。

どうしたね、饒舌的牝鶏さん！ おれの懷中を掠つた奴を調べてくれたか  
ね？

内儀 まア、ジョンさんてば、あんた如何お思ひなさるんですよ？ わたしここに  
盗賊が飼つてあるとでもお思ひなさるんですか？ はい、捜しましたよ、



調べましたよ、夫も一しよにな  
りましてね、一人々々に、丁年  
も、子供も、下男も。ところが  
が、毛一筋の十分一だつて、わ  
たしんところや失なつちやをり  
ませんよ。

フオル そりや嘘だ、内儀さん。現に  
バードルフが頭を剃られて、髪  
を大變失くしたらうぢやない  
か？ たしかにおれは掠られ  
た。駄目だ、足下は女だよ。

内儀 (やつきとなつて) え、だれが？ わ

内儀 たしが？ いゝえ、馬鹿お言ひなさい。ほんに／＼、わたしとこで以て、そんなことなんか、つひぞ言はれたことありやアしない。

フオル 駄目だよ、おれヤ足下を知り切つてゐるからね。

内儀 いゝえ／＼、貴下はわたしを知つちやゐません。ジョンさん、わたしは貴下を知つてます。ジョンさん、貴下はわたしに負債があるもんだから、喧嘩を吹掛けて、それをばごまかさうとなさるんだね。貴下に着せるために、襦袢を十二枚も買つてあげたぢやないの？

フオル 粗末な、薄ぎたねえ奴だ。あんな物ア麵麩屋の婢どもに與れてやッちまつた。奴らはあれで以て篩を製へた筈だ。

女主 いゝえ／＼、ありや一尺二志の和蘭リネンです。ジョンさん、あなたには尙その他にお辨當の代や鳥渡飲の代が貸してありますよ、お金も貸してありますよ、二十四ポンド。

フオル そりや（とバードルフを指さして）彼れにも關係がある。彼れに拂はせるが可い。

内儀 あの人は貧乏です。一文なしでさ。

フオル え！ 貧乏だ？ あの面を見な。足下はどういふのを金持といふんだ？ あの金光りの鼻なり頬邊なりを鑄させたら可からう。おれア一文だつて拂はねえ。え、おれを小僧扱ひにしようてのかり？ 旅館に入つてまでも巾着切の用心してゐなけりやならねえのか？ 祖父さんの記念の印の附いてゐる指輪を奪られッちまつた、四十マルクもする代物だ。

内儀 あらまア！ わたし王子さまに何度も／＼聞いてますよ、其指輪てのは赤銅だつて！

フオル なに、王子が？ ありや碌でなしだ、懦弱漢だ。くそッ！ 奴こゝにゐりや、犬のやうに叩きのめしてくれる、そんなことを吐しやアがるなら。……

此時王子とピート、半鐘にて進軍の歩調で出る。フォールスタ  
フ忽ち手に持つてゐた短い棍を笛に擬して、吹く真似をし  
て進軍の歩調に合せつゝ、臆面なしに王子を出迎へて

や、どうしたい、若い衆？ いやよく其方風と定つたかい？ みんな出掛  
けなくちやならんのかい？

バード

二人づゝ、二人づゝ、ニューゲート（監獄所）行きといふ鹽梅式に。（とつぶやく）

内儀

（急いで王子に敬禮をして半分泣聲で）御前さま、どうぞお聞き下さいまし。

王子

何だい、クイックリーの内儀さん？ 亭主はどうしてるね？ わたしはあの

仁は大好きだ、正直者だから。

内儀

御前さま、どうぞお聞きなすつて下さいまし。

フォール

そいつなんか放擲つといて、おれの言ふことを聽いて下さい。

王子

何だ、お前の言ふこととは？

フォール

此間の晩、此壁代の蔭で寝てたうちにね、おれ、懷中を掠られつちまつた。

此家は掏摸兼業の淫賣屋になつちまつたんだ。

王子

何を失したんだ？

フォール

ハル公、吃驚しちやいけないよ。四十ポンドづゝの券が三枚か四枚。そ

れから祖父さんから傳來の印形附の指輪を。

王子

些細だ、たか々八片の代物だ。

内儀

御前、然う申しましたのですよ、わたしも。御前さまが然うおつしやつた

のを承はつてゐると申しましたんですよ。すると、御前、あんな様の事

を、それはく酷く申し上げますんですよ、口ぎたない人でございますか

らね、あんな様を棒で叩きのめすと申しましてすよ。

王子

え！ まよさかり！

内儀

これが嘘でございますなら、世の中に眞實も、正直も、女らしさもあつたも

のぢやございませぬ。

フォル

汝には煮た梅干ほどの眞實もありやアしねえ。逃げかゝつてゐる野狐ほ

どの正直もあるもんかい！ へん、汝が女らしけりや、メイド・マリヤン

(山賊の妻)はお代官の夫人になれら。うぬ、此奴めが、うぬ！

内儀

なに、奴だつて？ 奴とは何だよ？

フォル

なに？ 奴てのは、その、何だ。お有りがたくつてならねえ奴なんだ。

内儀

いゝえ、わたし、決してそんなその、お有りがたくつてならねえ奴なん

かぢやありません。わたしは眞人間の女房です。そんなことをいふお

前さんは碌でなしです……お士爵さんてことは、ま、別にしといて。

フォル

御婦人さんてことは、ま、別にしといて、そんなことをいふ汝は獸類だ。

内儀

どんな獸類だよ、此碌でなしが？

フォル

どんな獸類だ！ ま、水獺だ。

王子

水獺だ！ どういふわけだ？

フォル

だつて、魚でもなけりや四脚でもない。どう始末していゝか分らん代物

だからだ。

内儀

そんなことを言ふなアあんまりです。お前さんだつて、誰だつて、わたし

をば好いやうにしておきながら、あんまりです！ (と泣き出す。)

王子

こりや内儀さんが道理だ。彼れの悪口が酷過ぎる。

内儀

御前、あんたさまの事をもさんくんに申してをります。此間もあんたに

一千ポンドの貸しがあるなんて申しましたんですよ。

王子

おい、(とフォルスタフに) 一千ポンドをわたしが足下に借りてるかい？

フォル

一千ポンドだつて？ 百萬ポンドだよ、ハル公。可愛がるのは百萬ポ

ンドの價値だ。お前はおれに可愛がられてゐるだらう。

内儀

いゝえね、御前、あの人は、あんたを碌でなしだ、今に棒で叩きのめしてや

ると申しましてすよ。

フオル え、バードルフ、おれが然ういつたかい？

バード は、たしかに、さう言ひなすつたよ。

フオル (少しも怯ずに) さうさ、おれのあの指輪を赤銅だなんて吐しや、承知しねえ。

王子 (すかさず切込んで) あゝ、赤銅だよ。さ、どうする？

フオル (ちよつと狼狽したが、すぐに盛返して) だつてその何だ、お前が只の人間なら、承

知しねえんだけれども、王子なんだから、まづ獅子の仔の唸るくらゐには怖いや。

王子 なぜ獅子の仔と断るのだい？

フオル まだ別に王さんて親獅子がゐるからね。お前を親父さんほどに怖いとは思はないや。

それが逆でありや、「胴巻が千裂れるやうに！」と神さまに祈らう。

王子

胴巻が千裂れた日にや、其臍物が悉皆膝の上へぶちまけられるだらう！

おい、お前のやうな虚言者はありやしない。其肚中にや眞實や正直

は形無しで、胃袋や腸ばかりが充滿だらう。枕搜しだなんて、正直な女に

言ひがかりをするなんて！ 此放蕩者の、鐵面皮の、肥ッちやうの悪黨め、

汝の衣囊の中にや、酒亭の勘定書と息切れを防ぐための砂糖が一片分ばか

り、他に何があるものか！ 若し其他に、假にも損害があつたと言や、汝は

大悪黨だ。これでもまだ言ひ草があるか？ 堪忍ならんなんて言へるか

い？ おい、これでも恥ぢないのか？

フオル

おい、ハル公、おい？ ねえ、アダムは、あゝいふ清い境界にゐてすら墮落

したらう。して見りや、邪念旺盛期のジャック・フォールスタッフだ、どうも止

むを得なからうぢやないか？ 此通り、人並以上の肉體を有つてるのだから

弱點も多い筈だ。……ぢや、おれの衣囊を掠つたのは足下だね？



王子 然うらしい噂だ。

フォル 内儀さん、お前は赦すよ。さ、早く朝食の準備をしてくれ。亭主を可愛がつて、召使に目を掛けて、客人を大切にしろ。おれは、正當な理由さへありや決して無理は言はない。もう全然機嫌を直してしまつた。……おや、まだり！ まアさ、往きなてば。……

内儀不平さうに入る。

さ、ハル公、朝廷の消息を聞かうぜ。追刺一件はどういふことになつたね？

王子 こんども俺がお前の守護神になつてやつたよ、大圖體坊。奪つた金は償つちまつた。

フォル あゝ、そりや詰らんこつた。二度手間だ。

王子 親父と仲直りをしたから、俺ももう如何なことも出来る。

フォル ちや、「い」の一番に、まづ金庫を此方の物にするんだ、手なんか洗つてゐねえでね。

バード 御前、さうなさいまし。

王子 ジャック、お前を歩兵隊長にしてやつたよ。

フォル 騎兵隊長のはうがよかつたになア。かうと、何處へ往つたら、盗みの巧手な奴がゐるか知らん。二十二三ぐらゐの氣の利いた盗人が一人欲しいや！ 情けねえほど無一物なんだからな。しかし謀叛がおッぱじまつて結構だ、奴らは善人にしか迷惑を掛けねえんだから。感心だ、大賛成だ。

王子 バードルフ！

バード へい！

王子 此手紙を(と一通を出して)弟のランカスター卿ジョンの許へ持つてつてくれ。これは(と他の一通を)ウエストモーアランド卿の許へ……

バードルフ二通を受取つて入る。

さ、ピートリー、馬だく。汝とおれは中食前に三十哩も往かんけりやならんぞ。

ピートリー心得て入る。

ジャック、明日の午後の二時までにはテンプル・ホールへ来てくれ。あそこで職務を言ひ渡すから。金も、軍需品の注文書もあそこで渡す。國中が宛然燃え返つてゐる。バーシー一家の勢ひが熾んだ。奴らを叩き伏せなければ、こちとらが倒れなけりやならん。

フォル

素敵だ！ 豪氣な世の中になつたぞ！……内儀さん、おい、朝食だく！

……(奥にて太鼓の音)あゝ、此酒亭がおれの陣太鼓だと好いのに！

入る。

\*

\*

\*

\*

\*

\*

### 第四幕

第一場 シュリュースベリー附近の叛軍の陣營。

熱拍車とウーセスターとドーグラスと甲冑にて出る。

熱拍

全く敬服しました。體裁を飾る現代は、實際の事を有りのまゝに言ふのをさへ、豊辭だの、追従だのと、悪くいふのが定例ですが、若し然ういふ嫌ひさへなけりや、ドーグラス家の如きは、現代普通の武人型中に全く類のないものだと言せられんけりやならんのです。神よ照覽あれ、わたしは

追従は能う言はん。阿諛は大嫌ひです。けれども、實際、貴下に感服させられたぐらゐに感服させられたことは曾てないのです。此一言の嘘でないことを、どうか事實で試験して下さい。

ドーグ

貴下は名譽事に掛けては王者です。が、どんな強大な人間をも、見事、わたしは敵にして御覽に入れる。けつこう。どうかさう願ひたい。...

使者書状を持って出る。

それは何だ？... (ドーグクラスに) 感謝に堪へません。

お父上からの御書面です。

父から！ 何故自身で来ないのか？

お出でになる譯には参りませんのです。非常に御重病なのでございませす。

使 熱 使

熱

誓言！ 此緊急の際に、病氣な

んかになつてゐてたまるもんか？ だれが代つて其兵をひ

きゐるんだ？ だれが親父に

代るんだ？

使

委細は御書面にございませうと存じます。

ウーセ

(使者になう、では、床に就いてをられるのか？)

使

はい、手前が出かけまする前四日間御就擣遊ばしてございまして、出立の際には、醫師た



ウーセ

ちが大變御心配申し上げてをられました。  
あゝ、事態が安全になつてしまつてからだとよかつたに。今が最も健康  
でゐて貰ひたい時なのだ。

熱

(此間に書状を讀み了りて) 時も時、今時分弱つたり、煩つたりするなんて！  
大事の計畫の生血が、それが爲に、腐つちまふ。其病氣が此處までも、此陣  
中までも傳染しちまふ。家父の此書面によると、腹部の病ひの爲に云々  
……到底代理の手では、身方召集は覺束なくもあるし、且つは自分自身以  
外の者には、斯ういふ重大な危険な全權を委託することは出来ないと思ふ  
と言つてゐます。けれども、斯ういふ大膽な提議もしてゐます。集つた  
だけの小勢で以て、運を天に任して、進軍しちやどうだと。もう王は吾黨  
の企畫を悉く聞知してゐるに相違ないから、今更遂巡すべきでないと言  
つてゐます。……伯父さんは如何お考へです？

ウーセ

お父さんの發病は大變な損害だ。

熱

全く痛手です。手足を切落されたんだ。けれども、其實、決して、そんな  
ことはない。家父の今度出て來ないのは、却つて可い事です。……有りつた  
けの財産を一度の博奕に賭けちまふのは好いこつちやないでせう。あぶ  
なかしい一か八かの一舉に、大切の寶を賭けちまふのは、聰明なやり方と  
はいへますまい。希望のどん底を、つまり、我黨の運命のトツの局限を  
見ちまふ譯になるんですから。

ウーセ

いかにも然ういふ譯になる。現在のまゝだと、再舉の餘地がある。將來  
の望みを頼みとして、大膽に投財することが出来るといふものだ。尙退  
却の慰めがあるから。

熱

隠れ家がある、逃込むところが、萬一惡魔と不運とに睨まれて、皮切の一戦に  
敗れたとしても。